幼兒教育研究雜誌

婦人と子ども

第拾卷
第九號

フレーベル會發行

第拾卷第九號目次

○幼兒の遊戯に就て　文學士　倉橋惣三氏談
○向上的修養　中島德藏氏談
○保育叢話　光藤夫人　記者
○逝けるナイチンゲール孃　礫々生　記者
○バイオリンの話　記者
○蟲の色々　記者
○動物園の彩色　記者
○乳媼の選擇　記者
○婦人の服裝　田代義德氏談
○御料理　みさを
○雜錄　一記者
○御伽訓話　記者

本會役員

會主　中川謙二郎
編輯　黑田定治
庶務　飯田沼田
庶務　池田村田
庶務　井關ヨシ
會計　小井關ヨ
庶務　大村ツ
庶務　和田井清
庶務　武井ユキ
庶務　山田森藏
會計　藤田枝
庶務　福井野
庶務　雨田譽
庶務　下田ふく
庶務　和田利
庶務　田田十釧
庶務　森田綱
庶務　たづ
庶務　實
幹事　長

質問規定

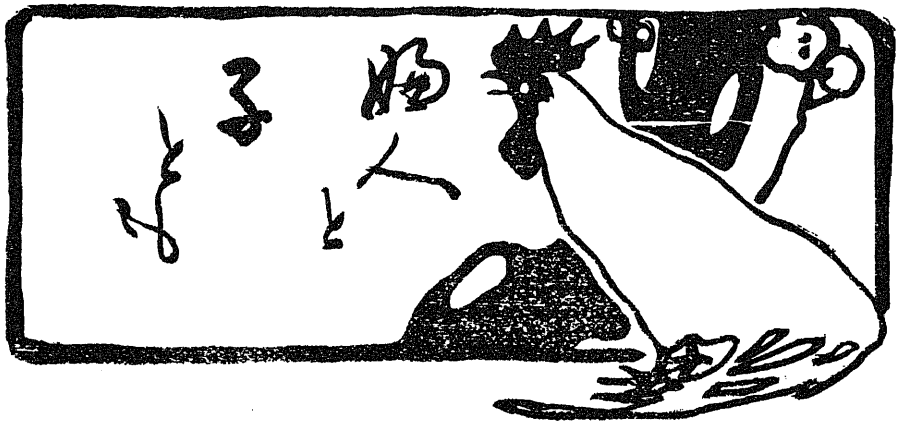
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で說明します。

入會又は購讀手續

（振替口座東京一七二六六番）

本會に御入會なさらうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登錄して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌丈け讀みたい方は此の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

◉一冊郵稅共金拾壹錢　◉六冊前金郵稅共六拾錢
◉十二冊同金壹圓貳拾錢　◉郵券代用一割增



第拾卷第九號

武田信玄家訓

一、心に物なき時は體泰かなり。
一、心に我慢ある時は愛敬を失ふ。
一、心に欲なき時は義理を行ふ。
一、心に私なき時は疑ふことなし。
一、心に驕なき時は人を敬ふ。
一、心に誤なき時は人を畏れず。
一、心に貪なき時は人に諂はず。
一、心に怒なき時は言葉和かなり。
一、心に堪忍ある時は事を調す。
一、心に曇りなき時は靜かなり。
一、心に勇ある時は悔ゆることなし。
一、心に迷なき時は人を咎めず。

兒童の遊戯に就て（承前）

文學士　倉橋惣三

二、兒童遊戯の心理的内容

一、諸感覺兒童の遊戯中の最原始的なるものは諸種の感覺に基く遊戯であります。其の中主なるものにつき述べて見ますれば、第一は觸覺に訴ふる處のもので、幼兒の生活に最も早くより顯はれます。手に於てするのが即ち「にぎ〳〵」でありまして、ブライエルの記載によれば生後第八週に於て行はれます。次に唇に於て行はるゝのが即ち「おしやぶり」でありまして、共に是れ皆觸覺に訴ふる快樂に基くものであります。但し斯くの如き事は單に幼兒に行はるゝのみではありません。吾々成人に於ても是等の唇若くは指の觸覺に訴ふる遊戯は常に行はれます。吾々が筆の軸や鉛筆などを識らず識らずに口に入れる如きは習慣の結果ではありますが、要するに唇の觸覺に訴ふる慰みであります。又グロースの申て居る如く、彼の卷煙草や煙管を口にするも亦、其の喫煙の愉快の他に唇の觸覺も大に關係して居るのであります。之を指の場合に就て見ますれば、吾々が散歩の折に携へるステッキなるものは、其の本來の用途から云へば種々の目的がありませうが、併し實際には之亦指の觸覺の娯樂に他ならぬ場合が多いのであります。斯くの如く吾々は日常の習慣として、別に一個の遊戯とも思はずに行つておる事の中に多くの觸覺的遊戯を見出し得るのであります。又兒童の場合に戻りまして、啻に指や唇ばかりでなく身體各部に於て單にその觸覺のみから成れる娯樂の例は少くありません。「おつむてん〳〵」、「はなはな」（幼兒の鼻や耳に觸るゝ遊び）又身體の諸部分を指名しては之れを撫で擦する遊びの如き皆此の例にあたるのであります。次に聽覺に訴ふる遊戯は之れを大きく二種に別ちて（い）單に受動的に音樂を聽くの樂みと、（ろ）自ら音響を發して樂むのとになります。之れを成人の場合に就て言ひますれば即ち音樂を聽く方と奏する方とにあたるのでありますが特にとり立てゝ音樂と名づけない種

類に於て兒童に此の種の遊戯が行はるゝのであります。前者は即ち子守歌の類を始めとし聲音又は諸種の樂音に對する兒童の嗜好を指すのであります。後者は便宜上更らに二つに分けて考へる事が出來ます。其の一つは即ち口を以てする音でありまして、先づ未だ言語なき時代の喃音を始めとして、幼兒は必ずしも人に語らんとするのでなく、單に自ら聲を發して樂む事の多いものであります。尤も此の事は啻に兒童のみでなく唱歌や詩吟などを以て其の意味から生ずる感興以外たゞ自ら己れの發聲を樂む事は吾々にも常にあるのであります。更に兒童の場合、次第に年齡が進みますと、啻に音を出すと云ふだけの事でなく、其の發音を故意に困難にして興ずる事が行はるゝのであります。彼の早口競爭、轉倒語（犬と猿と云ふをヌイとルサと云ふ如き）、挿音語（多くは各音間に上音と同列の一音を挿みて犬と猿を「イきヌとかサかルく」と云ふ如き）等の遊戯は皆此の例であります。又頭韻句と云ひまして頭の音の同じなる言葉を連語して一つの句をつくつたものが兒童の間に行はれます。ブロッスが之れを「フォルクスゲブロイヒリッヘスプラッハエキセルチ、エン」と呼んで居りますやうに各國にそれ〴〵其の國の頭韻句が古くから存して居るものであります。例令ば獨逸の "Bierbrauer Brauer braut braun Bier" 佛蘭西の "Car Didon dina, dit on, Du dos d'un dodu dindon" 等の如き、又我が國にも種々ありますが例の「ながもちのうへに生米七粒」や「瓜賣が瓜賣のこしうり〳〵と瓜賣りあるく瓜賣の聲」の如き之れであります。蓋し頭韻は多く早く誦し難いものでありまして、之れが遊戯の中に舌の運動の練習ともなるのであります。又之れ等とは全く別種で口を以てする聲音の遊戯の主なる物は口笛であります。次に自ら音を發して樂む中に器具を用ゆるものがあります。種々の樂器は即ち之れに他なりませんが兒童の遊戯として即ち玩具として最も幼くから用ひらるゝものに彼の「がら〳〵」や所謂「でん〴〵大鼓に笙の笛」の類、數限りなく多くのものがあります。其の他音響のみのものでなくて此の性を併有しておる玩具は無數であります。蓋し

兒童が如何に音響のみ（必ずしも音樂的興味でなく）を以て遊戯とするかと云ふ事は近年兒童間に流行しました「がり〳〵」や「アララ」の如き例が最もよく之れを示して居ります。「アララ」の方は多少の美音があるにしましても「ガリ〳〵」の如きは全く騒しき噪音たるに過ぎません。而かも兒童は之を以て音を發すると云ふ所から最も興味ある遊戯としたのであります。第三には視覺の遊戯でありますが、之れを四つに分ければ光と色と形と運動とを見るの樂みであります。蓋し是れは兒童の玩具として最も普通なるものでありまして、特に詳說を要せぬ事でありますが、茲に視覺的玩具として一個で以つて此の四つの性質を具へて居るのが彼の「開花眼鏡」であります。開花眼鏡は普通百色眼鏡と云ひまして古くからある簡單なる玩具でありますが、多くの古い玩具が次第に陶汰されてゆくうちに之れが今も尙ほ多く兒童の愛玩に存して居る所を見ても兒童が如何に視覺の遊戯殊に右四性質を併せ好むかゞ思はるゝのであります。硝子を透して明るき方を見る所に光りの快がありまし色硝子の細片に諸種の色彩を樂み、廻轉によつて種々の形と其の變化の運動から生ずる樂みを受くる事が出來るのであります。其の他此の四性質が分れて種々の遊戯となり又玩具となつて居る事はいくらでもその例を見出す事が出來ましやう。以上觸聽視の他嗅覺に於ても味覺に於ても、兒童は夫々の遊戯を行つておるのであります。只此れ等の感覺に於ては特に「何々遊び」と名のつかぬ程の原始的單純なる種類のもの、多い爲めに格段に遊戯として見做されて居ぬ事が多いのであります。併し其の原始的なると共に又他の種々な遊戯の中へ浸入して居る事に於て、感覺は兒童の最重要なる內容なのであります。

二、想像　想像が遊戯の心理的內容をなす事は更めて言ふまでもありません。御承知の如く、想像作用は所動的想像と能動的想像とに分つ事が出來ますが、此兩者ともに兒童の遊戯の主なる內容であります。殊に所動的想像は所謂幼覺力として殆ど一切の遊戯の通有性をなすと云ふてもよいのであります。そこで昔から云ふ、遊戯の特

性は其の幻覺にあると云ふ說さへ起る譯であります。殊に人形遊び（人形遊びと云ふ時は女兒に限る事のやうに思ふ方もありますが、遊戲心理で人形遊びと申す時は動物類の玩具をも一切含めた方が便利であります）に於て此の特性が著いのであります。而して兒童の此の想像性は非常に强いものでありまして、屢々現實と假想との差別が混交して仕舞ふのであります。即ち人形遊びにしましても、之れが眞の人ではない動物では無いと云ふ事は、一方にはよく知つて居るのですが、之を「あかちやん」とか「お馬」とか弄んで居る中にいつの間にか眞に赤坊たり馬たる樣の氣（即ち幻覺）になつて仕舞ふのであります、我々成人ならば、斯かる時にも現實と假想との別は明かについて居まして、故意に假想を逞くする（即ち能動的想像）のでありますが、兒童の場合では、全く所動的にかゝる事が行なはるゝのであります。其の他、砂がお砂糖になり、木の葉が御皿になるの類皆同じ事であります。而して此强い幻覺力がありますればこそ、遊戲が兒童にとつて最も熱心な興味を生ずる譯であり又其の効果の大なる譯であります。次ぎに能動的想像は遊戲に於ける種々の工夫となつて顯はれます。而して茲に最も活潑なる精神の活動が行はるゝのであります。即ち想像力が益々養はるゝ次第であります。尙ほ此事は後にもう一度述べます。

三、模倣

想像作用が內のものを外へ出す性質のものとすれば、模倣作用は外のものを內へとる性質のものであります。而して兒童は其の豐富なる模倣性によつて、あらゆる外圍を遊戲の中へ取り入れて來るのであります。前に遊戲の理論の所で述べました樣に、スペンサーが遊戲の說明を過剩勢力と共に模倣を以て試みやうとしたり、ウントが傳承的遊戲も自製的遊戲も、共に模倣によらぬものはないと申した事などから見ても、模倣がいかに遊戲の主要なる內容となつて居るかゝ分るのであります。彼の一般に何々「ゴッコ」と稱するゝものは皆模倣遊戲であります。只其れが傳承的になつてゆく間には一寸模倣の御手本の分りにくゝなつて居る樣なものもありますが、其の境遇

時代によつて。兒童が夫々の遊戯を自製してゆく事は誰も知る著しき事であります。所で此の模倣には種々の種類がありますが、普通所謂唯其儘に眞似ると云ふ事の他に、一種違つたもの即ち模倣に能動的性質の加はつたもの、之を戯曲模倣と名づけます。單に外圍を其の通り眞似ると云ふ外に之がまた兒童の遊戯に多く行なはるゝのであります。而して之が戯曲本能なる語を以て多く顯はされて居ります。即ち兒童の此の模倣が成人で云ふ戯曲代と同じ樣なことである所から、兒童が之を本能的にすると云ふの意味でありましよう。

四、滑稽感情　兒童は甚だ滑稽感情に富むものであります。兒童の遊戯中に於ける「オドケ」、「フザケ」等は卽ち其れであります。殊に兒童が戯曲模倣によつて種々のものを模倣すると云ふ場合には、主として此の滑稽感情を伴ふ事が多いのであります。或はむしろ滑稽感情を滿足させる爲めに戯曲模倣を爲すと云てよい如き場合も多いのであります。

五、好奇心　好奇心と云ふ語を以つて普通あらはされて居る意味は、追求と滿足との二作用を含むものであり、其の追求と云ふのは主として變化に對する追求でありますが、兒童の遊戯の內容となる所の好奇心は即ち、此の變化に對する追求であります。但し之れは或る意味に於ては想像が基になつてをるとも考へられぬ事はありませんが兒童の遊戯の實際に於ては一層簡單な、只變化其のものを喜ぶと云ふ事も尠くないのであります。極く稚い幼兒の時から、彼の「いない〳〵ばあ」には如何なる兒童でも興味を感じます。又玩具の中にいろ〳〵ありまする隱れたり顯いれたりする類の變化（「猫と鼠」の如き）も亦此の好奇心の遊戯であります。尙進んで兒童に知性的好奇心が盛になるやうになれば、其の種類の遊戯が次第に多くなるのであります。

六、自己保存本能　進化論上の過去に於て、自己保存のために必要であつた種々の動作及感情が本能的に兒童の遊戯の中へ顯はれて來るのであります。中にも最も著しい鬪爭の本能及狩獵の本能であります。それが色々の形式の下に負け勝を

爭ひ競ふ性質の遊びとして行はれます。其事自らに何の必要もある譯ではありませぬけれども、只爭ひ度い勝ちたひと云ふ本能の滿足を求めて樂むのであります。「鬼ごつこ」「競爭」「角力」等之に屬するのであります。兒童が此の時期に於て最も戸外遊戯を好むに至る一つの原因は即ち此の爲であります。其れが十五六歳頃から形式を更へて來る事は後に述べます。構成本能や蒐集本能も、其の起源を考へれば即ち一種の自己保存本能に屬すべきものでありまして、之が亦兒童の遊戯の中に多く行はれます。唯普通の所謂自己保存本能即ち競爭的の遊びとは樣式を異にします所から、別項にした譯であります。

七、アタビズム

隔世遺傳など、譯されて居りますが、即ち進化論上の過去祖先に於て夫々何か必要あつて行はれた事が、今は別に直接の用もないのに、兒童期中のある時期に可成强い衝動となつて現はれるのであります。兒童が衝動的に遊泳を好むのは水中生活時代の「アタビズム」であり、木の實や草の葉を嗜食するの風は、草食生活時代の「アタビズム」であると云ふの類であります。而して兒童の惡戯と名づけらるゝ種々の無益有害的遊戯中には此の「アタビズム」に基くものが少くありません。即ちその兒童の平生に似あはぬ樣な惡戯が別に意味もなく行なはれて叱つて抑へても禁じ難いと云ふ風の事が、父母教育者に非常に意外の感を與へ、何とも説明のつき兼ねる樣の場合「アタビズム」なる事が屢々あるのであります。

八、智力

兒童の智力の發達に伴ふて遊戯としてその智力を用ふるに到ります。即ち智力を正當なる現實の目的に使ふのみでなく、智的工夫そのものに遊戯としての快樂を感ずるのであります。「智慧の紐」「智慧の輪」「考へ物」「繪探し」「謎」其の他種々の數學遊戯と云ふ類のこと皆之れであります。其の事が現實の課業である時には智的勞作を厭ひながら遊戯として多大の快樂を感ずると云ふ兒童は少くありません。之に勝を爭ふ感じの加はつたものには、碁、將棋、骨牌遊びの類があり、青年期から成人になるに及びては其の智力の進歩に伴ふて此の種の遊び方がます〳〵復雜になるの

みならず、次第に遊戯的性質を減ずるに到りますが、併し遊戯としては此の種のものが最も長く續くのであります。

九、社會性　自己保存の本能に基く遊戯、即ち自らを主とする性質の遊戯が十才前後に最盛で十五六才頃になると次第に形式を變ずる事を前に申しましたが、其れは即ち社會性の發達に伴ひ、團體的共同的興味が事毎に兒童に多くなつて來るからであります。即ち今迄は自分一人の興味を中心にして考へてゐたものが、共同全體の快樂を以て自己の樂みとするに致るのであります。是に於て色々の「ゲーム」と名のつく遊戯が行はれ、遊戯内の法則が法則そのものに對する興味を以て守らるゝに到るのであります。而して勝負にしましても自分一人が勝つと云ふよりは共同の全體が勝つと云ふ事を目的とするに到ります。又之と一方には社會的興味の發達によりて諸種の社會的現象の模倣が行はるゝに至ります。兒童の作る種々の倶樂部其他種々の兒群的組織は皆一種の遊戯であります。

三、兒童遊戯の影響條件

兒童の遊戯は以上述べたやうの心理的内容からなるのでありますから、從つて色々の遊戯の種類が生ずる譯であります。但し茲に明かに御斷りして置かなければならぬのは、以上の心理的内容が必ずしも單獨に現はれるものではないと云ふ事であります。之は唯だ心理的分解を試みたのでありまして、實際上は之等諸内容が種々の複合をなして顯はれます。唯だその復合中の主要なる性質を以て其の遊戯の特色とすることが出來るのであります。そこで昔から遊戯の種類の分け方に就て非常に澤山の説もありますが、コロッヂなどの申す如く遊戯を心理的内容によつて分けるのが一番學術的であろうかと思ひます。偖て之で兒童の遊戯の横斷的分類は出來た譯でありますが、心理的に同じ性質の遊戯でも再び更らに種々の事情によつて違ひが起ります。之れを遊戯の影響條件と名づけて圖式に擧げた如く、一、年齢　二、性別　三、氣質　四、健康　五、時代　六、外圍　七、教育の七條件を數へなければならぬと思ふのでありま

す。此の一々に就いて詳しい説明を致せば、又色々の問題もあるのであります。何しろ此等の條件は單に遊戯と限らず總て其人の心理現象に影響を與ふるものでありますから、從つて諸必理的内容より成る遊戯に變化變遷を與ふることは明かな理であります。而して遊戯の教育としては此等の影響條件に對して、一方には適應一方には補修の注意が必要だと思ひます。

四、兒童遊戯の特性

遊戯の特性に關する論は種々ありますが「自由」と「快樂」と相擧ぐることは大抵の説が一致して居ります。併し、遊戯と仕事との別を單に「自由」、「快樂」としたのでは實際上種々の矛盾も起り易くあります。即ち實際生活上の仕事の中にも「自由」と「快樂」との存せぬ事はないのみならず、遊戯の中にも或る意味に於いては必ずしも「自由」のみならず「快樂」のみならざるものがあります。そこでグロースの言を參照して「實生活よりの自由」、「其れ自らの愉快」と特に條件をつけた次第であります。即ち遊戯には其れとしての非自由、束縛（遊戯の法則の如き）等はあつても遊戯そのものは實生活から解き放たれた自由なものだと云ふ事であります。又同じく遊戯中には勞力も多少の苦痛もあつて必ずしも快樂のみと云ふのではないが其事全體としては愉快を本質として居るものである。又仕事にも愉快はあるが其れは結果としての愉快を期待するので、遊戯ではそのこと直接の愉快以外の目的をもたぬと云ふ意味を表はしたのであります。則ち茲に於て明かにお斷りして置かなければならぬのは、遊戯の本質は兒童の自發に基くものでなければならぬと云ふ事であります。是れやがて遊戯と體操の區別であり又眞の遊戯と形式のみは遊戯にして而かも實は遊戯でないものと、別の分かる丶所であります。近來兒童の遊戯に就ての注意は大に行はれますが、遊戯の問題はその形式や種類の改良のみではないのであります。勿論其れも大切の事でありますが、遊戯の眞價値として一層大切の事は如何にして兒童を遊戯に對して自發的ならしむるか、其の自發を如何に指導すべきやと云ふ點にあります。

五、兒童の遊戯の結果兒童の遊戯の價値は兒童の身心全體の發達を助くる點であります。而して兒童の身心全體の完全なる發達は兒童をして善き實生活を遂げ得せしめる所以であります。即ち、此の意味に於いて、兒童の遊戯は實生活の準備になると云はるゝのであります。併し之れはどこまでも結果であつて目的ではありません。遊戯そのものが必ず此の目的即ち實生活の準備の爲めに存するものだと云ふことは同じことでありますが、言ひ現はし方の誤まりであります。此の區別を明かにしないと即ちグロースがバウルドギンから餘りに實際説に過ぐると云ふ批評を受けたと同じ誤謬に陷るのであります。以上各項簡單に申述べた他に、兒童の遊戯としては尚觸れなければならぬ細かい點が多くあります。併し初めに申しました如く、此のお話の目的は兒童の遊戯に關する問題中の主要のものだけを一と纏めに圖式にあらはそうと云ふにありますから、其れ等の細かいこと詳しいことは一切省略致しました。唯多くの問題や從來の諸説の中から之れだけの圖式に纏める爲めの選擇に就ては多少の考究を費した積りであります。終りに臨んで澤山の御是正を願つて置きます。（終）

向上的修養（一）

（大日本女子教育會席上に於て）

中島德藏氏談

▲我の強い婦人　今日は時勢が非常に進歩して、我々の思想の上に大變な變化を來たし、新舊の衝突が總ての上に著しく現はれて居ります、此時に當り我々の心得の一つにもしやうと思ひ、向上的修養と云ふ題に就てお話をする、今日の婦人は服裝でも髪容でも語遣ひでも或は行ひの仕方でも、強い我が判明と現はれて居ります、それに反して昔の婦人は我と云ふことは殆ど知らずに通して來たのであります、それ故に今日の婦人は何も彼も自分から割り出して、種々の事を行つて居ります、例へば衣服の色、模樣などにしても、昔の人は極

く澁い色、蚊の飛んで居るやうな模様を好み、今の人は其樣盲縞のやうなものは好まないと云ふのは昔の人の考へには、我がない、故に世間から或意味に於ては、政府から百姓町人は斯樣な着物士分は斯う殿上人は斯うと衣服の制を定められ、それをぐず〳〵言ふならば、首を切ると云ふ傾きであつたから、自然傍らの者も「其麼華美な色は可けませぬ、何でも譯の分らないやうな鼠見たやうな、ボンヤリした色が好い」と云ふと、昔のお孃さんには我が無いから「さうですか、それでは然う云ふことに致しませう」と言ふ、處が今のお孃さんは然うは參りませぬ「是れは好い色でございます」と云つても「でも私好まないわ」と被仰る、萬事其調子で田舍のボツト出が元祿模樣などの衣類を着て喜んで居る、其點に於ては又殆ど自覺が無い、自分の容姿は何うであるか、顏の色艶は何うであるか、自分には何う云ふ色の配合が宜いか、其麼ことには考へを及ぼさず「三越が宜い、と云つたから私も宜い」と云ふことになつて、甚だ簡單である、併しそれは又我無我の關係のみでもないのであるからこれは別として一體に無我と云ふことは、舊幕時代の流行、今日の大勢としては世界の風潮から考へて見ても、歐羅巴亞米利加では日本より先に我の色が現はれて來た、故に彼方では益々自分と云ふことを好み、自分と云ふ色合がそこに現はれるやうになつて來た、日本でも漸々然うなりつゝある又然うなつても、惡いことではないのであります、何の爲めに人間が此世の中に出て來たかと云へば、自分以外の人の爲に奴隷になりに來たのではない、矢張り自分は自分の主人である、それ故自分の爲たいことをして、惡いと云ふ道理はない筈であります、自分の似合ふ着物を着るのも宜い、爲たいことをするのも宜いと云ふのが、明治に於ける我的の有樣であります。

▲舊幕時代の婦人　一歩退いて舊幕時代の婦人を見ると、全然違ふ「私は之を好みます」と云つたら、社會國家からは、好んではならぬと云ふ、私は之が好きでございますと云ふと、それでは好いてはなりませぬと云ふそこで「御上が爾う被仰る

ならば私も好みますまい」と云ふそれをば若しも「それでも私はそれを好みます」と云ふものがあつたら、それは犯則者で、之を一言すれば、則ち無我の人である、我と云ふものを徹頭徹尾退治して仕舞ひ、何物に就ても我と云ふ要求を退けると云ふのが、舊幕時代の大體の精神でありました。

▲無我と其理想　抑々人間が、爲たい、食たい、見たい、聞きたい、眠たい、着たい、威張たいなど、云ふのは、一言すれば慾である、其色々の慾を惡いとした、慾の惡いと云ふ根本原理を申すと、人間の一切に就て惡事の原を探れば慾である、故に慾と云ふものを退治しなければならぬ、即ち無我主義、言ひ換えれば無慾主義、モツと簡單に哲學上の語で申せば、無、有と云ふのが抑も惡い、元々人間が此世に生れて來たのが抑も罪惡、生れなかつたならば、なほ結構な譯である、と斯う云ふ風な腦で考へる、さうして此考へが色々の事の上に現はれる、詩歌文章、さては政治等皆此無主義が德川時代には貴ばれた、此無主義を色に譬へたならば、黑或は鼠の如きものであります、芭蕉の句に「枯枝に烏の止りけり秋の暮」、貴女方が之をお聞きになつて面白味を發見なさるか何うか、秋風蕭殺の氣が、木の葉を拂ひ落し、草も枯れて、勿論紅い花も無い、そこに黑の色の鳥が一羽、色の上から言つてはコントラストも何にもないが、餘韻のある處、奥行のある處に、味のある俳句であると云つて繪にも描かれ人口にも膾炙して居るが、其麼面白味が何處にあるかと云ふに一切の人間の情慾は是れ即ち迷ひである、其迷ひを去つた處に眞の悟がある、其悟が人をして無慾、無、無我たらしむるので、之を禪宗の語で申すと本來の眞面目は、其處の無にあると云ふので德川時代の人は出來ないまでも、之を理想として居たのであります。

▲兩女の實例　之を道德の方で一言すれば克己、成らぬ勘忍をすると云ふ主義、それが甚だ大切のこと、なつて居つて人間らしい人間は皆其理想の下に修養を積んだのであります、其一例を申すと茨城縣の或村に百姓伊平太と云ふものがありました、伊平太は今日の生計にも困る貧乏である上に

子供が二人あり其上に濕と云ふ腫物が全身に出來て脚も腰も立たない、膿は出で臭氣は鼻を衝いて殆ど堪へられぬ有様であるけれども妻リエは之を厭ふ氣色もなく八ツに三ツの幼兒を抱へ一家の生計を立てながら其傍ら夫の看病に心を盡して居りましたそこの伊平太は妻リエに向つて申すやうなるそこの行末を案じまして看護は辭に盡せず難有く思つて居る永いあひだ親切なる美しい看護も癒らぬと思ふお前はまだ若かいのに此病氣で付きまして或時妻に向つて申すやうに、薄命を求めて位牌に緣も縁もない、其時リエが我が本己の他に縁を結び考へて自分の決心で云ふを理想として居りますリエは共に斃れて泣いの力で早速實家に歸つたで有らう能く夫に盡し後悔して克つと云ふ限りを盡し夫婦諸共に斃れて泣いて惣に成らんと申しました、其後リエの貞節は水戸藩の表彰する所となり現に今日までも其記錄が殘つて居ります是れが即ち德川時代の婦人の理想、己れを無きものにして人に盡すので、畫に描きました芭蕉の句を道德の話に移して申すと此無我主義俗に申す犧牲となることを敢て辭せぬのであります故に又斯樣な例もあります武州の本庄に諸井と云ふ家があつて上州伊勢崎藩の某氏と結婚した然るに間もなく夫は死し後を嗣ぐべき子供もないので、親戚一同協議の上再婚を勸めたけれども某は之を承引かない强ひて言はれて最後に「宜しうございます、夫では三年忌が濟みましたならば御言葉に從ひませう」と言つて承諾の意を示し、いよ〳〵三年忌の近ぎたる或夜身化粧を施し、衣服を正し夫の位牌に謹んで禮拜をなし咽喉を突いて死んで了つた、所謂貞女兩夫に見えずとの心情を實行した、これなども貞女烈婦の鑑として德川時代には大に褒められたものであります。

▲献身克己の缺點　淨瑠璃などに唄はれて居る理想は即ち前申したやう事ですそこで私共は之を聞くと涙が零れる、我々の腹には確かにそれが徹へる、「成程感心なものである」と思へばこそ涙もこぼれ、腹にも徹へるのでありませう、其理非は扨措き、兎にも角にも德川時代の理想は自分と云ふ考へを無くすことに因て何も彼も成立して居つたと云ふことが出來る、之を今日の時代思想から考へるとこんな馬鹿なことはない、又自分を悉く無にすると云ふ事は人間に向つて無理な要求であつて、其通り遣るのが必ず可いとは云へないと私も考へる矢張我と云ふものがなければ不可ないと思ふ併し又此我を無暗に振り廻はされては甚だ困る、然るに今日立派な教育ある婦人が我の強過ぎる爲め、一身の不幸を招き、一家の不幸を生ずる例が澤山ある、これは何う云ふ譯であるか、畢竟德川時代に於ての長所、所謂献身犧牲と云ふことを味ふことが足りない爲めであらうと思ふ言ひ換へれば、理屈は達者になつたが、實行が伴はぬ、献身克己と云ふ、何時の世に在つても人間社會に甚だ大切な精神が足らぬ爲めであらう、勿論女性に向つてのみ献身克己を強ふるは不公平な理屈で、男子と雖も、献身克己は必要である、複雜極まる世の中に立つた以上は、男女を問はず人生は總て献身克己の念が深くなければならぬと思ひます、上古は我の時代、中古は無我の時代、現代は我と無我とが巧みに調和さるべき時代で、此調和を拙くすると大へんな事になる、お互に身の破滅、社會國家の破滅になります。

▲古人の賜物　私は若い方々に向つて切に御注意申したいのは、前に云ふ德川時代に於ける理想は、全體の眞理ではなけれど、併し我々の修養として其一部分を取ることは、極めて大切な箇條であると思ふ、即ち今の若い方々の缺點とする處は我の強いと云ふことであります、何う考へても人間の世の中は、献身克己でなければならぬ、我を何處までも通さうとすると、一身も亡び一國も亡びる、今日までに西洋各國の亡びたのは、何の爲めか、麁末な我を主張する國民があつたからであります、人生とても其通り、我慾を強くしては、切辛

い世の中を渡つて往くことは出來るものでない、そこで己に克つと云ふ修養は、我々の意志を強くし忍耐力を強くすることに於て、最も大切になつて來ます、献身克己と云ふと、何か大變に難かしいやうに聞えるか、一枚の着物、一粒の米、一片の麭も皆是れ古人が非常な献身克己の賜物であります、婦人方が今日コンマ以上になるまでには、幾多の古人が献身犧牲の德に因るのであります。

▲昔の今の我慾は、昔の時代に現れた我慾は麁末だが明治時代の我慾は、必ず無我を背景にした我でなければならない、社會國家の爲めになるならば、何處までも献身克己をする、その爲に一身の毀譽は顧みないと云ふのでなければならない、我があつても宜いと云ふのは即ちそれである、故に私は思ふに百姓伊平太の妻に於けるやうな場合には、明治の婦人と雖も我は無いものとし、粉骨碎身して盡さなければならぬ、併し又再婚を迫られたが爲めに、咽喉を突いて死んで了うと云ふ諸井氏の行ひの如きは、明治式道德の上から考へて甚だ取るに足らぬと思ふ、斯ふ云ふ場合には先づ、自分の立脚地から死は可なりや否なりやを判斷してみなければならぬ、又その判斷の出來得るだけに明治の教育は進歩して居る筈であります、即ち今の人と昔の人との違ひは意識的に効があつて害のない樣に、献身克己をするのと、何でも彼でも献身克己をしさへすれば宜いと考へるのとの違ひであります。

▲献身克己の修業　未だ結婚もなさらぬ若い婦人方は、或事に當つてそれが大變善いことならば、辛かろうが服從をする又場合に因て無理だと思つたら無理だから無理を實行しやうと云ふだけの忍耐がなければならぬ、例之ば父母が斯う言つた、友人が斯う云ふ無理なことを言ふと云ふやうなことがあつたならば、無理と承知しながらも負けて置くのが大變に結構です、確乎した人間になるには、苦勞を澤山にしなければならぬ、「あの人はやさしい」と云つて昔の世の中に褒めた人は、一言すれば愚圖、右向けハイ、左向けハイと我意思の判斷もなく抵抗する力もなく、只ハイ〳〵する、そんな人間は明治の今日には要らない、明治の婦

人は、夫が家長として命令をした場合には、生命に係るほどの一大事、國家に關する程の大事件ならば格別、さもなければ腹の中では、是れは家長の命令だから遵奉するやうなもの丶、少し間違つて居るやうである、併しながら、さまで大事でもないから服從する方が宜からうと云ふ位の意思の働きがなければなりませぬ、可笑いことがあつても、今は笑ふべきか笑ふ可からざるかを考へて、笑ふべき場合であつたら少々位苦痛があつても忍耐して笑ふ、自分に悲しいことがあるからと云つて場所柄をも辨へず涙を禁め得ぬやうな、薄弱の意思ではこれから先の世の中に立つて何が出來ますか「餓じい思ひをするのは、苦いから私は餓じい思をして見やう」「私は汚ない着物を着るのは嫌ひだから汚ない着物を着て見やう」「私は人に負るのが嫌ひだから負けて置かう」此意氣が甚だ大切な修養となるので、表面上は負けたやうに見えても腹の中の意思力が漸次に強くなつて往く、意思の強い徹へのある人間になりさへすれば此世の中のことは什麼事でも出來ます、二十世紀の世の中に立ち、西洋諸國と肩を並べ、或はそれを凌駕して進んで往かうと云ふには、只我ばかり強く押通さうとするのは、謬見である、私は此意味に於て、德川時代の理想も取つて修養の資とする價値が充分にあるものと信じ世の人々に警告をする次第であります。

（完）

育兒叢話（承前）

光藤夫人

○公平なる心の大切なる事（賞罰につきて）

今更こゝに申すまでもない事で、誰れでも其位の心掛のない人は御座いますまいが、しかし三四五六と多くの子供を持ちますと、色々の情實や何かにかられて、つい一方に偏することがありまして、公平の心を缺ぐ事があり易いもので御座います。格別婦人の感情的なる此の弊に陷り易いかと思はれます。同じ我がお腹を痛めました子でも、あの子は可愛らしいから余計に可愛とか、あれは弱い

から可愛とか、あれは普すぐれて利巧だから好きだとか、あの子はどうしたものか余り可愛くないとか、あの子はなぜか憎らしいとか、ちよとしたはずみに何となく可愛ひ憎いが出來たり、長子であるからとて可愛とか、其處に偏頗な心が起りまし、偏頗な心が起りましたならばモウ公平な賞罰は行はれません、公平な賞罰が行はれないと白紙のやうな子供の心にしみが出來ます、ねぢけます、ゆがみます、極幼少なものは口に何とも申しませんが、しかし其の觀察は鋭敏で御座います、其の母の偏頗な心を看破する丈の能力はあると見えまして、嫌惡の情を起します。或はいやに泣いたり、怒つたりしまして、眞實母をなつかしみ、戀ふ心を起さない樣で御座います。か、る事柄は只一時でもよき感化は與へませんのに、常に母親がこんな心を持ちまして、子供に接しましたならば、其の兒の心は如何になりませうか、其惡影響を受けました將來は何うなりませうか、寒心に堪えないのであります。實に幼少なる子供を育てます母の責任の重い事、六ケしい事、とても學校などで大勢の子を一樣に教化するの比ではありません。

私も實際白狀しますれば、數人の子の中で末子が一等可愛く思はれます。之は一等少さいから弱者を助けるといふ同情心かも知れませんが、一つには他の四子は皆學校に出て居りまして、全然哺乳いたしませんでした、自然接するの時機も少なかつたので御座います。所が末子は學校を辭してから、專心家事に力を盡す事が出來る樣になりましたから哺乳も無論の事、一切萬事我が手で世話をいたしました結果であらうと存じます。どうしても兼好法師の去るもの日々に疎しの言葉のやうで、血を分けし愛子でも離れて居る時間が永い丈愛情の度が薄くはあるまいかと存じます。自然といへば自然で可愛い理由は御座いますが、常に私は恐れるので御座います。若之を他の公明正大な心を以て見た時に、末子に愛の傾く事はないかしら、他兒に惡感を起させる樣な事はあるまいかしらん、今では他の兒も皆末子は赤さんだからとて何とも思ひも言ひもいたしませんが、すこしも油斷ば出來ない事と存じて居ります。

公平な賞罰が行はれまして、はじめて數多くの子は、一樣に正しい道を踏む事が出來るのであります。正しい道を踏んで進み學びまして、始めて人間らしい人間となる事が出來るのであります。兄弟姉妹の和親も得られるのでありませう。延いては親を尊敬するの心も深いので御座いませう。兄弟姉妹打揃ふて親に安心もおさせ申す事が出來るので御座いませう。よく世上兄弟相爭ひ姉妹反目して一家の不祥を來す原因は、他にもありませうが、幼時より親の愛が平等でなく、或は兄を偏愛し、次子を疎んじ或は末子に愛を傾けて長子を疎んじた結果であるのもづいぶんある事と存じます。ア、自ら我身に及をあて、我が身を害し、家名を傷け、子孫を衰滅せしむるものといふも、過言であるまいと信じます。

それから又一つよく世間の母御の、子供を叱られるのを見ますのに惡い事をするとすぐ叱られる、謂以賞罰が餘りに無雜作であると思ひます。今少し子供の心理狀態に注意して、賞罰を施して欲しいと思ふので御座います。アノ子は襖を破つた何なせだらう。アノ子はインキをこぼしたなせだらう。アノ子は少さな子をいぢめた何故だらう。アノ子は寢小便をたれた何故だらう。常に此何故であらうの疑問を抱いて處置をしましたならば、公平に近い賞罰が出來易いと思ひます。何故なれば此何故であらうとの疑問を抱いて居りますれば、自然と解決が出來ます。身體がわるいからしつこをたれながした。彼れは仕事を仕度いと思ふてもする仕事がない、そこにあつたインキをこぼす、これ彼れの働であります。適當な玩具を與へねばならぬ、種々そこに解決がつくのであります、矢鱈叱るといふ弊は除かれませう。そして公平に近い賞罰が行はれませう。

○某男爵夫人の育兒談

學者として一世の名譽人望を双肩に荷ひ給へる、某男爵夫人を小石川竹早町の御邸に御訪ねいたしました。案内せらるゝまゝに、丁寧にならべらるゝ、洋書の架を兩側に眺めながら、玄關を奥に入り、廣い應接の室に丸いテーブルを中央に十脚ばかりならべてある椅子の末席に腰を下しました。

老女と思はるゝ人の、お茶菓子を運べる間に十八九の小間使は火を火鉢に入れ、一言二言言葉を交す中、夫人は茶縞お召の柄よき二枚襲に、黒縮緬の羽織を着流され、しとやかにしかも愛想よく私の連れました八歳の女兒ににこやかに御愛想をなさいました。

夫人の御言葉により御嬢様が御出でになりまして宅の少女を奥に連れ行き、共に遊ばして下さいました。

時候の御あいさつから申し上げますと、夫人は少しも隔てなく種々御談し下さいましたが、中頃から私の目さす育兒の方に談を向けました。

お子様はお幾人で御座いますかと申し上げましたらば、夫人は丁度八人御座います、實は四人失ひまして殘りが八人で御座いますが、私はまたどうしたものか、お産が妙で人様より違ふので御座いますとの事で御座いますから、それは又どうして御座いましうかと伺ひましたらで夫人はいつも私のお産の時産婆が間に合つた事はありません、いつでも産氣づいたと氣がついてモー十分も經たぬ中に生れ落ちてしまひます、いつぞやも何だか變だから一寸便所にいつて來ようと存じて參りますと、モー歸る間もなく生れてしまいまして、産婆は勿論何の用意もないので大騒ぎ、下女にお湯を沸かさせるやら、書生に産婆を迎へさせるやら、モー〳〵目の廻る様に騒ぎました事が御座いましたが、主人もそれから大層心配しまして早く用意をしておけと申しますから、其の後は大抵一月位前から産室を用意しまして待つといふ風で、四五十日も産室を用意してある事が御座いますとの御談に私も餘り見た事も聞いた事もないので成程お輕くつて宜しい様なものゝ、危險な様にも思はれますし、全く破格で御座いますねと、申上げますと、夫人はヌルクなりかけし珈琲に口をうるほはせられ、全く破格で御座いませう、それで産後の肥立は至極よろしく、尤も養生をよくいたしますが、モー産後からすぐ様私の乳を與へまして、ドノ子にもまだ牛乳乳母の乳を用ゐた事は御座いません。自然子供は私の所にばかり居りまして、おしめの世話まで餘り人手を借りませんでした。

それに主人も子供の世話はよくいたしてくれまして、遊ぶにも共に遊びますから子供達が皆お小言の多い、私よりか却て父親を慕ひまして、大層なつきました。

主人の子供に對する育て方の方針とでも申す樣な事は、只モー大抵な事は大目に見まして、小八ケましく申しません、少々惡戯をしても、少しも小言を申しません、年中大方子供を叱るといふ事はないので御座いますが、只嘘をつくはよくないと申して、之ればかりは大嫌ひで、嚴重で御座いまして、之ればかりは大嫌ひで、嚴重で御座います。すべての惡事は、大抵はこの嘘といふ一點から湧き出ると申しまして非常に恐れて居ります。

老女はヌルクなりし茶を入れかへました。私も子供を育てる事のいとゞ六ケしい事を申し上げますと、夫人は私共も長女から三人まではモードーヤラ心配も減りかけましたが、まだ五人の幼少なのが御座いまして、少しも心の休まる事は御座いません、マー大きな子はよく勉强してくれますも宜しいが、餘り勉强が度を過ぎて身體に障りても困ると存じますから、試驗が來たからとて夜遲くまで勉强させる樣な事はいたしません。何にせよこれからの世の中では生存競爭が次第に激烈になる事で御座いませうから、身體の健康といふ事が大事で御座います。だから幼少な時分から餘程注意いたさないと、といと謙遜に述べらるゝお言葉の中に凛として動かすことの出來ない眞理の含まれて居るのを見出しまして、成程男爵の今日の榮達お子樣が人並すぐれて賢く成績のよろしいのは、アー此の賢母の隱れたる恩惠による事多きを知りまして、いとゞ崇敬の念の高くなるのを覺えました。

眞率にして、一點虛飾なき。意味深長にして言葉少ななる夫人のお談に、つい長居いたして其の失禮を詫びつゝ辭して歸途につきました。

○一人子の教養法

兄弟姉妹が澤山あるが幸福か、一人子が幸福であるか、今俄に斷言は出來兼ねますが、一人子は數多い子供を教育するより、餘程氣をつけなければなるまいかと存じます。

兄弟姉妹の多い中では無論、母親が感化の中心で

はありますが、それでも長男とか長女とかのする事を、弟妹は皆よく見て居りまして、よかれあしかれ、其の眞似をする事が多いのであります。ダカラ長子によい習慣をつけておきますれば、其の他の子は大抵教へないでも其の習慣を受けつぎます。

それならば子供は長子さへよく氣をつけて教養しておきますれば、其の他は放任しておいても、よくなるかと申しますのに、必ずしもそうではありません、或は長子は大層よくつても弟妹は餘りよくないといふのも澤山あります、或は長子は餘りよくなくつても弟妹は大層よくなるといふのもづいぶんあります。しかし之等は或は他に種々の原因がありまして、いろいろ變るのでありませうが、一つは生れながらにして備ふる天性とでもいふべきものではないかと思ひます。此の天性善か惡か大に學説のある所で御座いませうが私は學者ではありませんから、未だ深く立ち入つて研究した事は御座いませんが、極普通の所見を以てしますれば、どうも人は皆生れながらにして夫れ夫れ具備する點が違ふのではないかと思ひます。或は母親の胎内にある時の感化、或は兩親の遺傳、或は祖先よりの遺傳とかゞ此の天性の遠因となるので御座いませう。

兎に角同じ父親母親の血を受て生れ出でし數人の子が、又同じ親に育てられて、しかも五人は五種、皆同じ樣なのは御座いません、或は大變に反對の性情のあらはれるのも御座います、之れは或は四周の境遇にもよりませうが、其の大要は天性によるのではありますまいか、大に世の識者の高教を仰ぎたいと思ふ點で御座います。

右の樣なわけで、五人は五種でも、同じ母の膝下に養育を受けます兒は、大體皆長子の風を眞似る事が大變なもので御座いますから、どうしても、重子によい風儀を作りおく事が肝要で御座います、若し長子の生れし時一人子の時だとて、我儘にしておきましたならば、大變に困るので御座います、なせならば、アレは長子だから少々我儘でもよろしいが、二子からは嚴重にしつけなければ困ると存じても、中々骨折損のくたびれ設け位のもので、

好結果を得る事は六ケしいのであります。ダカラ數人若しくは十數人の子女ある家庭では先づ其の長子からよく氣をつけて敎養しておきますれば、其の他の子は餘程仕易いので御座います。

所が一人子となりますと、どうもそうは行きません、無論手は行屆いて、万事に注意は出來ますから、よく氣をつけさへしますれば、立派な人間に育て上げる事は六ケしくない樣に思はれますが、事の實際はそう參りません。

私がかつて學校で受持ちました、一組の生徒の中に三人ばかりの一人孃が御座いました。有福なるにまかせて、美衣を飾らせ、美食に飽かせてあつた樣で御座いますが、ドーモ我儘な事、クラス中の燒點となつて居りました。そしていつでも三人衆多の中より離れて、少さい組を作り、何となく大勢の中すぐれたものを、疾視する風のあらはる丶事が御座いまして、手コズッタ場合も一度や二度では御座いませんが、大抵は我儘から起るの擧動で御座いました。

餘程親がしつかりとして敎養しないと、一人子は必ず此の我儘に陷り易い境遇であると存じます、なぜならば大勢の子供でありますと、一つの菓子も自ら思ふ存分頂く事も出來ないで、母親の分配なさる通りに、或は三つ或は五つに分ちて頂く事もあります。最も好な果物でも自ら思ふ丈頂く事は出來ないで、皆平等に分たれるので、子供は自然に我儘を抑へ、我慢をするといふ風が出來ます。或は時々は一人子ならばアレモコレモ皆私一人のものになるのにと一人子を羨む樣な下劣な心を起す事があるかも知れませぬが、其の時にはよく悲觀させないで兄弟多き幸福も悟らせるのであります。之れがやがて子供が學校にいつて多くの友達と仲よく遊ぶ豫備なのであります。即ち家庭は學校の豫備、學校は他日社會に出る用意と見て差支ないので御座いませう。

一人子はどうも餘りに我慢するといふ境涯が少ない爲めに、自然に忍耐力に乏しく、其の結果は怒り易く、意久地なしになり易いではなからうかと思はれます。ダカラ一人子を持たる丶母樣はよくこ丶に氣をつけて、我子の我儘を增長さす樣な事

は除き去り、成丈公平に取扱はれる事が肝要で御座います。

一人子は又身體の健康狀態を憂ふるの餘りに、思ふ樣に斷乎とした處置の出來ない場合がづいぶんある事と存じます。前申述べました三人の中の一人娘が、成績劣等でいつもいつも困り切りますので、保護者を呼び出して注意を與へますと、母親はモー私の言葉の終らぬ前から、兩眼に涙を浮べて、學校の板の間にヒタと座し、まことに私は子を澤山持ちましたが、皆死亡しまして、モー彼の娘ばかりなのでとあとは言ふ事が出來ないのであります。私も只やさしく慰めていたはり、少しづつでも進む樣にと告げる外彼の母は聞く勇氣はないのであります。

之を思ひますれば、其の健康狀態が餘程教育上の害となるのは瞭然で御座いますが、此の例の樣なのばかりではなく只建康な子でも、親の身としては常に此の弱點がある事と信じます。ダカラ此の點からいひますれば、一人子はマー不幸と申さなければなりません。

しかし體格さへ健全でありますれば、万一を杞憂する念は絶えますまいが、思ひ切つて我儘に陷らぬ樣工夫して教化する事が出來るのであります。

逝けるナイチンゲール孃

記者

今より九十年前即ち千八百二十年五月十二日富裕なる一英國紳士が夫人と共に大陸を漫遊して伊太利のフロレンスに到りける時夫人は月滿ちて一女子を生みぬ、依りて地名に因みてフロレンス、ナイチンゲールと名づけたり。

ナイチンゲール孃は女子として周到なる教育を受け殊に數學、語學に長ぜりと云ふ。孃は幼より慈愛の心深く曾つて一犬の跛を引きて歩むを見測隱の情に絶へず懇ろにいたはり愛撫せしと云ふ。孃は裕かなる家庭にありて何事も意の如くなるにも拘らず自ら進んで世の傷病者の友たらむ事を期しぬ。一千八百四十四年孃ば資を齎して大陸に遊

び此處、彼處に或は病院を訪ひ又は看護制度を視て得る所あり一千八百五十一年には一看護婦として カイゼルウエル病院に入り看護法に於いて當時歐洲第一と云はれし同院の看護婦長について研究する事一年有半、後歸國してロンドンの一病院を整理す。

一千八百五十四年英佛魯の國交隱かならず、戰雲クリミヤの天を蔽ふ。ロンドンタイムスの特流從軍記者ラッセルが軍隊の疾病と負傷とに困しみ看護不行屈なる爲め悲慘なる死を遊ぐる者續出するを報告するや、孃は奮然身を提し同年十月時の陸相シドニーハアバート氏に書を寄せ特志家三十七名と共にクリミヤに赴き看護に從事す時に孃年齡三十有四。

孃のクリミヤに到るや献身傷病兵の看護に從事し人をして全身愛の權化かと疑はしむ。如何に孃の傷病者より敬慕せられたるかは傷病兵の孃を呼ぶに「燈火を持てる貴女」「看護の女王」と云へるを以てその一般を知るを得べし。或る者は感激して「彼の女は天使なり」と叫び他の者は泣いて孃の影に接吻せしと云ふ。翌年孃は過激なる勞働の結果烈しき熱病に犯されしも歸國を肯んぜず前後三年英佛兩軍全く戰地を去るに到つて始めて歸國せり。

孃の郷土に歸るや歡迎の聲耳も聾せんばかりにて畏くも ヴイクトリヤ女皇より御眞筆の謝狀と共に「憐なる者は幸なり」との聖句を刻したる十字勳章を賜はり又同時に自由民權を許さるゝ等の特典ありぬ。孃は英國有志の感謝の爲めに孃に捧げたる五萬磅を以て直ちにナイチンゲールホームを設立し今日のトーマス病院の起源をなせり。孃は身を以つてクリミヤに實例を示してより十年、歐洲の有志は瑞西國ゼネバ市に會し戰地に於ける疾病者負傷者の狀態改良を謀り、戰地病院は中立又之に關係するものは戰鬪員以外と見做す事に定めたり。孃は逝けり然れ共五十年前孃が魁せし事業は今日赤十字の源なりき。

孃は其後英國陸軍衞生局顧問、英國看護婦會の組織、看護婦養老院の設立等に盡す所あり晩年は專ら印度註在英國軍隊の衞生狀態改良に盡瘁した

り嬢の著書中主なる者を擧ぐれば「病院に關して」「看護婦に關して」「印度駐在軍隊の衞生狀態」「産科病院に關する意見」「印度に於ける生死」等なり。

嬢は又熱心なる女子選擧權運動者にして「すべて一家の家政を掌る者及び納稅者は國家の支出費に對しても發言權を有するの權利あるは自明の原則なり」と唱へ居れり。嬢は數年前より中風症に罹りて一切の訪問客を謝絶しロンドンパークレーンに靜養せられしも急に病革まりて長逝の訃に接す悲しい哉。

バイオリンの話

礫々生

西洋音樂に對する趣味は近頃大層普及して參りましていかなる寒村僻地にありましてもオルガンの音やバイオリンの響を聞かない事はないやうになつて參りました。殊に都會にありましては到る所

到る辻々に日本古來の樂器なる三味線や琴の音を壓倒しはバイオリンやオルガンの響が致します。今やバイオリンやオルガンは殆ど中流以上の家庭には欠ぐ可らざるものゝ一つとなりました。實にその價は一筋の帶一個の指環よりも廉く然かもオルガン又はバイオリンの家庭に貢獻する所のものは決して些少ではありません。例へば家庭の平和をまし又は個人の趣味をたかめる等誠とに枚擧するにいとまがありません。

ピヤノは其の價のあまりに高價なる爲めに重もに上流社會の家庭にのみ限ぎられてある觀が致しまするが之に反しバイオリンは比較的その價が低廉なるがためその學習法の至難なるにもかゝはらずあらゆる方面に流行致して居ります甚だしきに到つてはバイオリンを逆に持ち寫眞をとる人が生ずるに到つてはバイオリンの爲めに泣かなければなりません。餘事は偖ておいてバイオリンは何時頃から出來たかと申しますると西暦三百五十年前伊太利に於て始めてマジニ。ハデサラなど云ふ人が製造した物です。バイオリンにも幾多の變遷が

ありまして昔から現今の樣な物ではなかつたのであります。昔はバイオルと稱して四本又は五本の金屬製の絃を持つて居りまして指板と申して我々が指で絃を壓し種々の樂音を出す所に月琴のやうに假柱がありました。此の假柱によりて樂音を容易に得るのたすけをなしたのです。其の後此の假柱を取去るについては當時の音樂者は皆その無謀なるを嘲りました。然し假柱によりて樂音を得やうとする時は手指の熟練にのみ重きを置きます速い速度の曲を演奏する時は指は速やく假柱の上を滑らなければなりませんけれども今や假柱が取り去られた曉にはたゝはやく指が指板の上を滑るばかりでなく同時に正確なる樂音を得なければなりません。

されば今迄はたゝ手指の練習ばかりでしたのが更らに聽覺によつて音の正否を區別しなければならなくなつたのです。即ち假柱を取りさつた爲めにバイオリンは學習するのに一層困難になつたのです。然し假柱にばかりたより指の熟練にのみ重きを置くよりも微妙なる人の聽感に訴へて演奏する方が一層靈妙なる樂音が自由自在に得ると云ふ事は明かであります。現在のピヤノ若くはバイオリンに於ましてもし我々が要求するだけの樂音を得ませうとすれば鍵の數をもつとづつと增さなければなりませんがバイオリンは演奏者の耳さへよければ即聽感さへ充分に發達して居りますればいかなる美妙なる樂音も得る事が出來るのであります。之れがバイオリンの最も勝つた點で又同時に學習者の最も困難に感ずる所なのであります。バイオリンは他の樂器に比して比較的演奏者の心をうけて悲哀壯嚴にも敏捷快活にも奏する事が出來ます。バイオリンは死物ですけれどもまるで奏演者の心がバイオリンと身を化して歌つてゐるやうに四つの糸が唱り響く時の心地は自ら手にした人でなければ到底想像の出來ない愉快さであります。

蟲の色々

記者

古來歌によまれ俳句に吟ぜられ騷人墨客の友として鳴く蟲は優しく愛らしきもの〻一つである。凡俗な緣日に市松格子葭簀張の屋臺の虫賣はたしかに一異彩を放つてゐる。扨て之等の鳴く蟲はいづれも野生の物は殆どなく皆人工で孵化するのである。然し賣物にする迄には一通りの苦勞ではない、素より羸弱い蟲の事であるから成育する迄には種々の故障が出來る、病氣に罹るもの羽や脚を折るものなど生じ完全に發育する數は少ない。

鳴く蟲には色々種類があるが普通なのは松蟲、鈴蟲、轡虫、閻魔蟋蟀、蛬、石鷄、鉦叩、金雲雀、大和鈴、邯鄲及び黑雲雀、草雲雀で、その中あとの五つは小蟲と云ふ。先づその中最も普通なのが鈴蟲松蟲で左に鈴蟲の飼養に名ある某氏翁の經驗談を記せんに。

私は一つ鈴蟲を飼つて見やうと、日本國中、鈴蟲を以つて名ある土地から鈴蟲を取寄せて音を聽分けて見ました。米澤からも取り寄せました。秋田からも取りました。其他嵐山、宮城野、吉野、嵯峨野等、全國各地に涉つた中で最も音の冴えてゐるのは嵐山と宮城野産の鈴蟲です。其れで此の兩種を作つて見ませうと思ひ失敗に失敗を重ね苦心に苦心をつみて漸く目的を達しましたのが四年前です。其から更に淘汰に淘汰を加へて養成し音律もよければ身體も他の鈴蟲よりはズット大きい嵐山鈴蟲を作り出しました。さて子を取るにはどうしたがよいかと云ふに。秋蟲とて普通のとは異り八月頃より鳴き出す秋蟲を選び、雄を廿五匹に雌を五六十の割合で健全なのを別々に置き、雌雄共に鮪饅等の濃厚なる食餌をやつて主として精力をつけるのです。而して秋の最中、先づ九十月の候に赤土を盛つた箱へ一緒にしますと交尾して、直ぐに尾を土中に突きさして産卵致します。此の産卵は十一月迄も續き、雄は旋て斃死します。其の死骸を雌は喰つて仕舞ひますが又雌も間もなく死んで仕舞ます。其を捨て〻置けば土中の卵は翌

年の春暖と共に漸次孵化しますが、其れを待つて居ないで温濕を加減して人工孵化をやるのです。普通人工孵化を行へば一月末に孵へりまして三月の末から鳴き翅が生へ五月の末にはチロリンリンと可愛い聲をして鳴きはじめます。餌は馬鈴薯胡瓜、茄子、菜類及び酸味のない果物が一等ですから、時々鮪や鰻を白燒にしたのを與へるがよろしい。さうしますと忽ち音が澄んで參ります。世人は大暑中に水をやると元氣が出ると申しますが、水氣は土砂に吹いてやるのも嚴禁しないといけません。又日光に當てる事も禁物です。以上は翁の實驗談ですが他の蟲も大同小異で、蟲共は初めて卵から孵つてから鳴く迄には六度皮を脱ぎ捨てると云ふ事である。餌は大概摺餌を用ゐてゐる。摺餌は小鳥の摺餌と同じやうに、米と糠と鮠とを臼で搗き、摺鉢でよく摺り小松菜の葉の裏に塗つてやる。松蟲だけは鮠の入つたものは一切喰はぬから菜の葉や桑の葉をやる、轡蟲などは鳴き聲も御粗末だが餌も到つて下等で芋の葉や藪辛子の葉

などが好きで、牛蒡南瓜などもたべる。以上松蟲や鈴蟲は大勢仲よく暮してゆくに反し蟋蟀や馬追や邯鄲などは小さな細長い箱をいくつにも區劃して各々一匹づゝ入れて置くのである。何故かと云ふに此の連中は却々氣性が殺伐で同類相食み血を流すを何とも思はぬから區劃しておく。鈴蟲は比較的仕立て易いが松蟲には二種の恐ろしき流行病があつて一つは幼蟲の時不圖斃死して全身赤く變色するこれが一匹出來ると全體の一團體に大恐慌を來すので忽ち同族間に傳染し續々として斃死する。今一つは尻の劍の尖の方が付いて仕舞ひ糞が詰つて死ぬ。此の種の傳染病は閻魔蟋蟀にもある。是れは死骸に白い黴が生えるので一匹出來ると直ちに他へ傳染する。豫防法としてはやつぱり他の蟲を近づけないより他にない。こほろぎは隨分穢ない所に生育するから什麽所でもよいかと云ふに中々さうでなく案外綺麗好の由。一般に蟲を繁殖さするには秋の末、赤土を壺に七分程いれ、雌雄の蟲を入れ置くべし。翌年六月下旬發生するのであるが、早く孵化さすには壺の口

を紙にておほひ寒中より、そろ〳〵日向に出し春の暖さにて孵化したら麥粉を砂糖にまぜ蜜でぬり板に塗り土にさしおく、幼蟲は之を喰べ生長する。鳴く蟲の中で一番愛玩さるゝのは石鷄である。石鷄を飼ふには、古い澁氣のない木で一尺四方位の箱を作り、其の中央に岩を置き片端に赤土を入れ水をたゝへ二三匹入れて置く。上は全體目の細かい金網で覆ふ、秋の末には水を去り（箱に穴をあらかじめ穿ち置き水をとる時栓をぬきとり水を流出せしむ可し）其の後へ赤土を澤山に入れ、全體を風呂敷につゝみ又は瓶中へ赤土をいれ仕舞ひ置く赤土の氷らないやうに注意してやる事が大切である。飼は小形の蠅であつて銀蠅は惡し。秋の末には小さき蚯蚓を與へるを可とす。石鷄は秋の末より夏の初めまでは何も食しない。

草雲雀、大和鈴、邯鄲等の如き小蟲には梨子を薄くそぎてやり時々燒鮑を與へるとよく鳴き。閻魔蟋蟀は名詮自稱で中々恐ろしき齒を持つて居ますから餘程丈夫な籠でないと破られる。

最後に、こほろぎ鈴蟲は五錢位、松蟲六錢位、邯鄲籠入二十錢、鱗蟲、草雲雀、鈕叩、大和鈴などは籠入十五錢位、石鷄は二十錢位より五十錢位あります。尤も石鷄には非常な逸物もあつて從つてその價も一定してゐない。（了）

動物園の彩色

記者

本年二月二日に京都市立の動物園でお產をした兒獅子のうち牡は檻から出てきて鈴鹿技師夫妻の手に座敷のなかで育てられて居ると云ふ事です。鈴鹿技師は細君と共に此の兒獅子を我が子の如く可愛がりて哺育して居るそうです。毎日精肉三百匁に牛乳一升五合宛一ヶ月約五十七圓の養育料を支出して育てゝゆく甲斐があつて生後百六十日計りで體量十貫目以上になり同園内の豹よりも大きくなりました。始めは兒獅子の御學友として二三匹の犬を召集した處が無邪氣な獅子皇子は他愛もなくころ〳〵と轉び合つて喜んで居たが日一日と

長ずるに及んで蠻力を揮つて犬の前足を押へつけたりなどするので犬は何時もキャン〳〵啼きづめの苦しみを見兼ね鈴鹿夫人からお暇が出たそうです。兒獅子は鈴鹿夫妻には宜く馴れて居まするが見知らぬ人がくると怖しい權幕で眼を光らします。細君には酷く馴いて一寸でも細君の姿が見えないとウン〳〵と啼きながら探して歩くと云ふ事です。兒獅子は夜るになると鈴の音を聞いて寢るものときめてゐるから午後九時に園丁がチリンチリンと鈴を振ると居間に遊んで居た兒獅子は急いで蚊帳の中の箱に這入り穩和しくねんねをして朝は四時頃眼をさましてて機嫌よく遊び暮して居る相です。又先々月廿六日の朝に神戸へ入港した常陸丸は新嘉坡からいろ〳〵珍らしき動物を大坂の博物館へ持つて來ました。先づ大蛇が三頭で之れは周りが三升樽よりも大きく長さは五十呎、重量は九十八貫目もあると云ふ事です。日本では未だ曾つて是れ程大きな蛇が輸入された事はないそうです。次ぎはクダンと云ふ奴で時々日本でも牛が產んだり人間が產んだりすると云ふ話がありますが誠に珍らしい動物で鹿によく似て居る。頭には小さい綺麗な角があつて、顏は人間に近く四肢の蹄は二つに割れてゐる。此のクダンと云ふ動物は不吉を豫言する動物で自分を飼つて呉れる主人が死ぬるときか又は自分が死ぬる前には必ず鳴くが滅多に鳴かない鳴けば自分が死ぬのだから要之一生の間に一度しか鳴かないと云ふ沈默な動物です。其の他バルガン山猫等も來りしよしバルガンと云のは印度のボンベイやカルカッタ方面に澤山居る鳥で大さは日本の烏位しかないが風葬した印度人の肉が大好きと云ふ獰猛な鳥です。又東京の上野の動物園には先月上旬二種の珍らしき動物が來ました。其の一つは馬來半島產のホロンヒル雌雄一番ひにて嘴が大きく且つ嘴の端に更に角の如きもの生じ居るより犀鳥とも云つて頗る異樣の動物です。他は沖繩縣南大東島に產せし大蟹五疋にて同地方では木登り蟹又は椰子の木蟹と稱し長さ一尺二三寸位にて其内三四寸は尾より腹部にかけ鰕の如く曲折し鋏は大きく指の長さ八寸位もある由且つ小指の尖端にも鋏がありて前後左右に自

由自在に歩行する事が出來色は紫赤色又は煉瓦色にて餘程の年月を閲したる古蟹にて日本にきたのは今度が初めてだそうです。

以上は最近新聞紙に見えました面白い動物の二三を擧げました。此の他上野の動物園では鷄が孔雀を孵し濠洲産の鶴も丹頂も目下卵を抱いて居るそうですから間もなく可愛らしい雛鶴が生れる事でありませう。

乳媼の選擇

（婦人衛生雜誌）

母親が自分の乳で其子を育てると云ふのは、これは天の定めたる處で、又實に其義務で有ります、凡て善い事に天然を利用してゆくのは智惠ある人間の務むべき事でありますが、これを惡用し或は自然の法則に反けば、必ず相應の罰を免れません。古來我邦の婦人は、一般に自分の乳を以て小兒を育ててまゐりましたが近來に至りましては、西洋流に格別なる理由もないのに、動物の乳をもつて育てる樣な惡習が這入て參りました。これを人工營養と申しまして、自然營養に對して惡用するのであります、而してその結果の不良なる事は、醫師の明かに認めて居る處であります。

一體牛の乳は牛の子を育てるに適當して居りますが人間の子を育てるには不適當なのであります、然るに牛乳で育てた方が却て良いなど丶云ふ愚なる事を申す者が間々あります、それのみならず人の體には他から這入つて來る處の毒に對して、其害を防ぎ毒を消す處の働きがあつて、小兒に乳を飲ますれば小兒の身體にもこれが移つて行きますが、他の動物の乳や、其他の物を以てする人工營養の小兒に於ては其力が遙かに弱いのであります。これら種々の原因からして、人工營養の自然營養に劣つて居る事が明かでありまして、實際人工營養の小兒が病氣に罹り易く、病氣に罹れば癒り難く自然營養の小兒に比して其の死亡數が非常に多いのであります。それでありますから、決して牛乳などを以て小兒を育てずに是非母親自身の乳を以て育てる樣にしなければなりません。然

しながら、實際そうばかりはゆかぬ場合があります、それは、どう云ふ場合かと申しますれば、乳房の發育が不完全で小兒が哺乳する事の出來ない場合、生來乳のでかたが不足で小兒を養なふ事の出來ない場合、例へば乳腺炎だとか、其他の乳房の病氣で乳が十分出ないやうなものであります、又分娩時の出血が餘り多かつた爲に母の身體がひどく衰弱して居る時、褥熱に罹つた時、乳頭に皺裂が出來て痛みの烈しい時は無論でありますが、尚病氣では、結核、著るしい神經素質の遺傳ある人、重い腺病、高度の貧血、心臓瓣膜病、癲癇、重き歇斯的里、急性傳染病、脚氣などであります。以上の如き場合には、其乳をもつて小兒を育てる事は出來ません、茲に至つて初めて人工營養と云ふ事の必要も起つて來るのであります。そう云ふ譯で人工營養でなければ小兒を育てる事が出來ないとなりますると、これは中々面倒な事でありまして、母親の乳なれば、元來その兒を育てるに最も適當して居つて、始めから終りに至る迄其成分が小兒の成長に丁度比適して、申し分がなく、何

等の面倒もなく自然に育てる事が出來ますが、人工營養となりますると、矢張り動物の乳を選ばなければなりませんが、これには、自然其成分が最も人間の乳に近い、馬とか、山羊とかを選びますが、これは一寸得難い、そこで止むを得ず普通牛乳を用ゆるのでありますが、其成分が人間の乳には餘程遠いので、色々と調合して用ゐなければなりません。そればかりでなく、乳房から直に飲むのとは違つて、牛乳屋が搾り取つて賣るのでありますから其間には隨分不正な混ぜ物をしたり、尚夏季などは腐敗し易く中々安心して飲ませる譯には參りません。それでは、なんぞ乳でないものをもつて育てる事が出來るかと云ふに、これは尚一層困難な事でありまして、乳粉とか申して米とか麥とか、或は豆などの粉をもつて育て樣としても三四ケ月に至ります迄は小兒の身體の中にはこれらの澱粉を消化する作用が備はつて居りませんから、身體の養ひとはならず、只胃腸を素通り致し下痢を起す位の事であります、それで色々の人工營養品も製出されましたが、いづれもそれのみで

は十分に小兒を育てる事は出來ません、矢張り牛乳の樣な動物の乳を用ゆる他に仕方がない。

けれ共、牛や馬の乳を用ゆる前に、人間の乳を用ゆる事が出來ると云ふことを考なければなりません、卽ち乳媼を雇ふ事でありまして、母自らの乳をもつて養なふ事の出來ぬ場合にはこれに如くものはないのであります。然しながら、乳媼を雇ふのにも乳さへ出れば善いと云ふ譯にはいきません、これには十分其選擇を嚴重にする必要があります。若し乳媼を雇ふとする時には、醫師に檢査をして貰へば一番宜いのでありますが、今こゝに其醫者が檢査を依賴されました時に、乳媼に付いて如何なる處に氣を付けて、此の乳媼なればよろしい、或はこれはよろしくないと申すかを述べましたならば、これに由つて大概乳媼の選擇が出來樣と思ひますから次に其の大體を申し上げます。

古の支那の醫書に乳母の性質、卽ち親切であるとか薄情であるとか、性急であるとか、野呂間であるとか、凡て其德行の善惡迄其の乳を飲む小兒が皆似るものであつて、丁度植木屋が接木を爲る時に其の接木が全く臺木の樣に成ると同じ事であると申して居りますが、これは稍云ひ過ぎた樣にも思はれますが然し面白い言葉であります。

まづ乳媼は生みの母と略同じ頃に產をした者が最も良いのでありますが、然しそれよりも三週間或は五週間程前に分娩した者でもよろしい、これは乳が十分に出て長い間飲ます事が出來るからであります、又初めて產をした者でなくともよろしい、既に一人二人小兒を育てた者を選ぶのもよいのであります、その年齡は二十歲以上三十歲以下で、皮膚や髮の毛色なども、成るべく小兒の母親に似て、齒は健全且つ綺麗で、其性質は神經質の者ではいかぬ、成るべく氣の落付た、オツトリした者を選ばねばなりません、尙本人の今迄の住活狀態、それから是迄重病に罹つた事があるか無いか、若し病氣をしだならば其病氣はドンナ病氣で有つたか、父母兄弟は健康であるかどうか、死んだ者があればそれは何んで死んだかを調べる、次に全體の體格を見て皮膚の狀態から、齒齦や目の裏の色、殊にトラホーム樣のものがありはせぬか、又

全體の肉付きから骨組、尙皮膚に斑點や瘢痕などがないか、頸や腋下などにグリ〳〵が無いか、殊に齒は健全で澤山齲齒などはないか、脣などの爛れはないか、口中や鼻が臭くないか、腋臭がないか、と云ふ樣な事も調べる、それから、心臟、肺臟、胃腸の具合等も診察し、尙生殖器病のあるなしも檢査をする必要がありますが、これは普通むつかしい事であります。

次に是非檢べたいのは、乳母の小兒の健康であるか、どうかと云ふ事でありまして、其小兒に遺傳黴毒、腺病、其他の病症があつてはなりません。西洋では八釜敷これを檢べますので乳母に雇はれる者が、往往他人の丈夫な小兒を借りて行つて醫者や雇主を欺く事が少なくないと云ふ事であります。

乳媼の乳房は、其見た處又重みに由つて乳が澤山にあるか、どうか分ります、まづ乳房の皮膚は張つて居つて、光澤があつて、太い青筋が皮膚の下に透いて見へなければなりません、又乳頭はいちると直にかたくなり易く、その乳頭の長さも十分小兒がからむ事が出來る樣に突出て居つて傷などがあつてはなりません。斯う云ふ乳房でありますれば、先眺向きの物でありますが、一見脂肪に富んで居つて立派な乳房の樣であつても、一向乳が出ないものもあり、又これに反して見た處は餘り豐かでないが、乳を出す腺の發育が良くて中々よく乳の出るものもありますから、乳房の檢べも輕卒にはなりません。

一體よく乳の出る乳房の型と云ふ物は、眞桑瓜の樣な格好を爲て居るもので、これが先最上のものでありますが、其次にはそれよりも多少短くて少し垂れたもの又普通張り詰めて茶椀をかぶせた樣な格好で圍りにひゞ筋のあるのは大概餘り乳の出ないのが多い樣であります、其他力を入れて吸はなければ出難いものと、一寸吸ふて出るものとありますから、其出難いものになりまするとと、身體の弱い小兒には困難であります、それで小兒の強い弱いに由つて多少これも氣を付けなければなりません。

良い乳房は輕く壓した處で少なくとも、五六本の

腺から乳が奔ばしり小兒が既に滿腹した後でも矢張り其位でなければなりません、兎に角乳媼を雇ふ時に一日程留めて置いて小兒に乳を吸はして見るに、大概二十分間も哺乳して、乳を飲みながら小兒が眠る樣であれば、この乳媼は十分小兒を養ふに足るものと見てよろしいのであります。いよ〳〵乳媼を雇ふたとなれば、其乳媼がこれまで食べつけた飲養物を急に變へない樣に、なるべく今迄の習慣を守らせるのが宜しいのであります、然しこれで以て小兒が消化障碍を起していつ迄も癒らない樣な場合には、止を得ず又乳媼を替へなければなりません、而して最初より三時間毎に規則正しく乳を與へる樣にして、嚴重にこれを守らしめて勝手な時に乳を飲ませる樣な事は爲てはなりません、最もか弱い小兒であれば一時間或は二時間毎に少しづゝ乳を飲せなければならぬ樣な事もあります。尙乳を與へる度數に就いて一言申添へて置きますが、始めの一週間は、九回、第二週後は、八回、一ケ月の末には、七回、それから後は六回位の割で、例へば午前の六時、九時、十二時、午後の三時、六時、九時に乳を與へて、夜の九時から朝の六時迄の間に小兒の欲しがる時にもう一回位與へてもよろしいが、これは最初の一週間位の間として、其後は朝迄なるべく與へずに眠らしめる、こう云うふうに時間を守つて乳を與へまするならば、二十四時間に僅か、七回で澤山であります、最もこれとても、當り前の規則でありまして其小兒の強い弱いにも由り、又病氣の時などは醫者の相談を受けて多少變更しなければなりません。

婦人の服裝

醫學博士　田代義德氏談

▲婦人と袴　婦人の袴――學校に通ふ生徒は今日では殆ど皆袴を用ひて居ります、今から十四五年前、私の長女が高等女學校に通つて居つた時分に、學校で、筒袖を奬勵したが、二年生位までは筒袖も宜しいが、最早三四年生の間には、あまり歡迎

されないで、遂に行はれずに仕舞ひました、又實際此筒袖と云ふものは、どの位の年齢の生徒にまで宜いかと云ふことは、問題でありますが、私は袴の方は、必要に迫られて近き將來に於て學校の生徒以外に、家の中で働く人にも用ひる人が多くならうかと思ふ、何となれば先づ第一に勝手元の樣子が是れまでとは大に變るだらうと思ふ、從來に蹲踞んで働くのであつたけれども近頃では、多くは立つて働くやうになつた、從て机を勝手に置き、其上で仕事をするのを下女が大層喜ぶやうである。勝手の都合がさう云ふ風になると、その擧動の上から何うしても着物の前がひろがり勝ちになつて、從來の前掛だけでは不充分になるであらうと思ふ、假令下婢は前掛だけで濟ましても、奥さん方が臺所の事に干渉り、いろ〳〵の監督をする場合に下婢と同じ前掛を用ひるよりは、體裁上から云つても寧ろ袴を穿くやうになりはしないかと思ひます、私は一體前掛と云ふものは、昔の袴の殘物だと思つて居ります、つまりその殘物が又元の袴に戻りはせぬかと思ふのです、それのみならず、これからの夫婦は大抵相携へて出掛ける、現に私共も山水に遊ぶにしても散歩に出掛けるにしても、大抵一緒に出るやうにして居ります、夫婦相共に歩くと云ふことになると、場合に依れば坂も登らねばならず、細い道も往ねばならぬこともありませう、それには現在の日本服は甚だ不適當であります、其上に大體に於て此世の中が繁雜になれば、總て婦人の動作の如きも、敏活でなければならぬ、即ち此世の中の要求に應じて、敏活にしやうと云ふには、先づ第一に其衣服に於て何等かの改良を施さなければならぬと云ふ問題の出て來るのは、誠に當然のことであると思ひます、昔は一寸しても婦人は足弱など、云ふことを言つたが、今日は婦人と雖も足弱では世に伴つて往くことは出來ませぬ。

◇姿勢と袴

一般多くの婦人に袴を用ひらるゝ樣になると、其姿勢の方にも自ら影響して、元來俯向き勝ちであつたのが、反身になつて來ます、日本の婦人が俯向き勝ちの姿勢になると云ふのは、着物の前のひろがらぬやう氣を附けるからであつ

て、袴になるとそれに顧慮しなくなりますから自然眞直になつて居ることも出來ます、從て穿物なども、何等かの改良を加へ、靴に似たやうな形になりはせぬかと思ふ。

▲服裝と建築　勿論穿物とか衣服とか云ふものは現時代の建築と非常に關係のあるものですが、現今は新たに建築でもしやうとする人は皆和洋折衷にしますが、それでもこの疊と云ふものはなかなか廢めらるゝやうなことはなからうと思ふから、從て下駄などゝ云ふものも長く保存さるゝでありませうが、前に申す通り、袴だけは一番早く家庭に流行さるゝに至るであらうと思ひます、然ら ば日本婦人は、總て正裝する場合にも袴を用ひると云ふやうなことが、近き將來にあるであろうか、それは少し疑問であります。

▲美觀を旨とす　此間某新聞に婦人の姿勢の好くないのは、婦人の帶や袴があまりに上過ぎるからである、成るべく帶や袴は下の方（腰の上）へ締めよと云ふ某氏の談が出て居りました、某氏が其通り言はれたのか何うか、私は直接に聞いたのでないから、決して攻擊をするのではありませんが、果して新聞の記事の通りに話されたものであると、私はこれは到底行はれ難い說であると思ひます、何故なれば婦人の帶の腰の上あたり（現在の普通より下方）に締めた恰好は何うでありませうか、恐らく見好いものではなからうと思ひます、婦人の衣服は或程度まで其人に美觀を加へるものでなければ何の樣に實利實益があつてもなかなか輿論が之を容れませぬ、歐羅巴で婦人のコルセットは衞生上有害である或は婦人が長く裳を地に曳いて道を歩くのは裾に黴菌の附く恐れがあるから、裳は短かくしなければならぬと云ふことを、喧しく唱道しても、一向行はれない、要するにこれは理想に止る事と思ひます。

▲帶の利害程度　婦人の俯向き勝ちの姿勢と云ふものは、帶の爲めと言ふよりは寧ろ衣服の前のひろがるのを懸念すると云ふ方に關係が深からうと思ひます、それから又平生家の內に在つて坐はると云ふ習慣が、大變婦人の姿勢を俯向き勝ちにすると思ひます、其外婦人は幾分が恭謙の態度を示

す爲めに、俯向き勝ちになるもので、婦人の姿勢は其心理上からも説明し得る點があらうと思ひます、且つ又帶を現在の處に締めても、胃の工合を惡くするとか、消化を害するとか云ふことはなからうと思ふ、勿論正裝した場合には、飽食することは出來ないので日本の婦人ばかりではなく、西洋の婦人と雖も、コルセットを強く締めますから充分に食事を取る事は出來ない、之を下帶の方に締めると云ふことは、婦人の姿勢を好くする原因となるとは思はぬ、其他にも帶の位地と云ふことはさして、衞生上に影響ありとは思へません。

▲居室と衣服

家の建築と云ふことは、婦人の衣服の上に、大なる關係があります、即ち是れまでの樣に坐つてばかり居るのならば、是れまでの衣服で差支はない、併し今日新たに建築さるゝ多くの家屋は大抵皆和洋折衷である、然うすると勢ひ其衣服の上にも何等かの改良を促さるゝは當然であらう、從來の日本婦人の姿勢は、私の見る處では正裝して坐つた形が、一番美術的で、風韻に富んで居ると思ふと云ふのは、從來の婦人服と云ふものは、坐居に相應すべく研究されて居るのであらう、作法の上から云つても、坐つて事をするのが多く、立つて行くと云ふことは、臨時に起る所作であるから、坐つた姿に研究を凝されたのは自然の結果であらうと思ひます、之に反して西洋の婦人は、其作法上より見ても建築の上から見ても立つて居る場合が多く、それ故に其立姿に最も意匠を凝らされて居る、彼の立派な夜會、園遊會などの場合にも盛裝した婦人が、威儀を正して、歩いて往く樣は誠に神々しいものであります、斯くの如く婦人の衣服と云ふものは、其建築と相俟つて、其姿を美ならしむべく、研究をされて居るものである、さすれば其建築が昔と違つて、和洋折衷になつたなら、衣服も亦改良を施さるゝは當然のことであらうと思ひます。

▲心理作用と態度

されば單に坐ると云ふこと一ツが、婦人の姿勢を俯向勝ちにしたのであるかと云ふに、決して左うではない、從來の教育が徒らに恭謙の態度と云ふことを主としたのも大に關係して居るのであらうと思ひます、併しながら恭謙

の態度のみが、婦人の美德ではないので、言語擧動を快活に發すると云ふことも、矢張婦人の美を增す大切なることでありますから、教育の標示が違つて來れば、自然婦人の思想上にも影響を及ぼし、其結果言語動作の上にまで變化を來たしませう、假令又姿勢が反身になつたからと云つて、一概に驕慢に見えると云ふことはない、彼の雛を御覽なさい、袴を穿いて居るから腰を張り、反身になつて居る、併しながら首だけは俯向いて此處に充分恭謙の態度を示して居ります、今後の日本婦人が袴を着けた結果として姿勢を眞直に保ち、胸を出す樣になつても、其人の心の持ち方と、それから又此頸のこなしに因て、從來日本婦人に認めた處の婦人美を維持することは充分出來ます、其外今後は其人の關係して居る仕事と其境遇とに因て、多少反身勝になつても、決して高慢らしく見えないやうにならうと思ふ、私の考へでは日本婦人が西洋婦人の如く、男女同權と云ふことを主張しないまでも自己の地位を向上させ、自分は夫の友達であると云ふ信念を堅くすると云ふことは、最も大切なことであると思ふ、未だ現在の婦人は、夫の友達でなく、動もすれば夫の人形になつて仕舞ふものが少くない、勿論イブセンの人形家と云ふ小說を見ても、西洋にも妻が夫の人形たるに過ぬ實例はない譯でもなからうが、今日多數の日本男子が、妻を內助者と認て居らない併し男子がいかに婦人を壓制しやうとしても、敎育が進み、婦人に智識の增すに從ひ、婦人は自分から夫の相談相手になり、時には意見を述べると云ふやうに、婦人の思想が變つて參り、變つた思想は態度に出て來なければならぬ、例之ば複雜な社會の事情に婦人が必ずしも人の妻となつて世を送ることが出來ず、職業を求めて獨立生活を續けて行かなければならぬ場合が多くあります、然う云ふ場合には婦人が徒らに柔美の態度では不可い、所謂可愛らしいとか可憐らしいとか云ふばかりでは不可ません、何處かに氣高い處がなければならぬ賤業婦人の嬌艶な態度に對しては、不謹愼な男子は、遂に戲れの一言も言ふやうになるが、立派の婦人は男子をして失禮な言語擧動なからしめるだけの態度

がなければなりませぬ、多くの人に交際をして行く上に於て、其人格の貴賤上下を識別するは、先づ第一に態度にあるのですから、婦人の態度が苟くも男子をして敬愛の念を起さしむるに足るものがなければならぬ態度をキチンとするには先づ第一に服裝をキチンとするのが大切でございます、此事は萬國交際の頻繁な今日、決して忽にすべからざる問題であらうと思ひます。

▲將來の風姿　斯樣な次第で建築の變化に伴つて婦人の服裝も改良され、先づ第一に家庭に於て袴と云ふものが行はるゝに至るであらう、又夫婦相携へて旅行をすると云ふやうな場合にも、袴を着用する樣にならうと思ふ、それから袴を用ひる關係から、頭には帽子を用ひるやうになるであらうと思ひます、一體今の束髮は、あまりに裝飾が少なくて、淋し過ぎるから、頭には是非共何等かの美的裝飾が必要であります、現に看護婦の被つて居る復の帽子、あれは頭髮を散らさぬ樣にと云ふのが表面の趣意ではありますが、矢張り看護婦の頭に美觀を添へると云ふ意匠も之に加つて居るのであります、して、婦人の服裝の上には何處がに美を欲する婦人本來の天性が發揮されるのであります、又さうなければならぬのであります、現在の束髮の上に何等かの裝飾が施さるゝとすれば、私はさう遠くないうちに帽子が用ひらるゝであらうと思ふのです、現に今日でも幼さい女の子は、皆帽子を被つて居る、これが漸次大人にも及んで來るに相違ありませぬ、併しながら公會の席上に於ける現在の日本婦人の服裝と云ふものは、隨分優美なものでありますから、今後と雖も此風は必ず永く維持さるゝであらうと思ひます。

▲東西趣味の交通　袴を着け、帽子を被るやうになりますと、自然婦人の姿勢は眞直になります、殊に近頃は漸く世界が狹くなり、從て各國の交通が頻繁になつて來ますので、互に其國風趣味まで、共通する樣になつて居ります、日本には西洋の風が這入り、西洋には又日本の風が這入つて行きます、此程獨逸から歸朝した人の話に、元來彼地では艶に模樣を付けたものであるが、近頃では日本の風を眞似て灰色とか其他一色を用ひ所謂華美な

るものよりも澁いものが流行して居るさうです、政治法律學術などの上に絶えず東西の文明が出入して居る通りに、美術的趣味も彼我互に交通して、婦人の風俗などは、常に此邊の變化を受けて居るのであります、要するに現在の日本婦人の衣服が、何時無なるかと云ふことは、建築に伴ふ問題で、殊に長い年月の間研究された正裝の姿の如きは、日本婦人に好く適應して居るのであるから、永く維持せらるゝであらうが、併し或部分は必ず折衷さるゝであらう、否されねばならぬ必要があらう、それには何處よりか腰から下が早く折衷され、袴を用ひらるゝは將に近きにあらう、同時に帽子も用ひらるゝであらうが但し袂は長く、現在の儘に維持さるゝであらうと思ふのであります。（完）

お料理

みさを

一週間朝餐獻立

一、月曜日
一、オート、ミール
一、スライストース
一、菓物　珈琲

オートミールは大匙二杯を一合の水に浸し一晩置きます、翌日これを弱火にてよく攪きまはしながら煮ます、そして煮えましたら深皿に取り砂糖適宜に牛乳五勺計りかけて出します。

スライストースは先づパンを一分位の厚さに切りましてテンピかストープの中に入れて燒きますとバク〳〵になりますから尚取り出して遠火で燒きまして一層カリ〳〵に致してさまして置きます、そしてさめましたら一面にバターを塗りて皿に盛りて出します、此パンを燒きますのにテンピやス

トーブのないところでは、初めから遠火で氣長に燒きますと矢張り同じやうによく燒けます。

果物は其時々にあるものでよろしう御座います、なぜ朝から菓物を頂くかと申ますと、此果物は多量の糖分と燐と酸とを含むで居ります、桃の熟したのは殆ど甘蔗と同等の糖分を含むで居ります、又此燐は生命健康等に關係致さないようで御座いますが、此燐は腦髓神經等の元素でありまして、心神上の活動及神經感動等に因りて消耗されますから、思想を費やす人即ち勉强盛りの子供には是非必要なことで御座います、それ故どちらの御子樣方も果物は大變御好きなもので御座います、之れは自然の作用で是非子供には朝果物を與へます方がよろしいと思ひます、其に早朝果物を頂きますと便通を調へる功も御座います故食前に與へる方がよろしう御座います。

珈琲をおいしく頂きますには先づ一人前には大匙一杯として三人前ならば大匙三杯、これに玉子を破りまして其殼を一つぶり入れまして、之を浸すだけの水を入れましてよく搔き廻して壺に入れ、三合の珈琲を要する場合には、先づ其半分一合五勺の湯を入れまして壺の口を塞ぎ香氣の逸れ出ないやうにして烈火にかけて凡そ五分間煮沸致します、煮沸ちますと珈琲は上に浮き上りますからよく搔きまはし火から下して、今度は下火にかけて十分か十五分煮まして前の殘りの一合五勺の御湯を入れます。

此樣にして出來ました珈琲を注ぎますのに、其渣の出るのを防ぐ爲めにモスリンかフランネルの切れで漉しましてもよろしう御座いますが、最も簡便な方法は珈琲を煮て火から取り卸すや否や、冷水を大匙一杯加へ二三分間其まゝにしてをきますと渣は自然と沈澱して清らかな珈琲が出來ますから直ぐに珈琲茶椀に注ぐ事が出來ます、此珈琲には普通クリームと砂糖とを入れて用ひますが、健康の爲めには、クリームや牛乳を入れずに頂く方がよろしう御座います、なぜならば、珈琲の中に含む物質とクリームと結合して腹中に於て膜の樣になり消化するのに時間がかゝりますからで御座います。

一、火曜日

一、ハムエッグス

一、ミルクトース

一、果物　一、チョコレート

上等のハムを凡そ一分位に薄くそぎましてバターで兩面ザットいためます、そして玉子を二つフライ鍋にバターを溶してよくバターが煮たちましたら前の玉子を形のくづれぬやうに落して燒き黄のまど固まらない内に皿に取り、前のハムを其側に置きまして出します。

ミルクトースはパンを四分位の厚さに切り遠火で氣長く炙りまして狐色に焦し四分四方の角に小さくきざみまして、煮沸ちました熱い牛乳を其上から掛け砂糖をもふりかけて出します。

又他の仕方でも、日本風に折衷致しまして、先づ牛乳一合を沸して鹽と砂糖とを適宜に加へて煮沸ちましたら上等の葛を少し水で溶いて、前の牛乳にませドロ〳〵したソースを作り、前の如く燒きたるパンにかげて食膳に供します。

果物は何でもよろしう御座います。

チョコレートは板にしてあるものを擦り卸して大匙三杯を熱湯二合にて溶して十五分間煮ますと、濃くなりて、ドロ〳〵になりますからクリームなれば上等ですが、牛乳でもかまいません一合入れまして砂糖は人々の好みにて適宜に入れて充分に之れを攪亂致しますと、泡が立つて參りますからそれを度として火から卸して、小さきチョコレートカップに注いで出します、このチョコレートは珈琲の如く大カップで出すものでは御座いません。

前の分量で三人前は充分御座います、又コーコーと同じ分量で前の如く煮立てゝ用ひます、コーコーは熱帶の產する植物の種子の粉にしたものでチョコレートは此コーコーに交ぜ物をして製したもので御座います。

一、水曜日

一、コーン、ミール

一、スクランブルド、エッグス

一、果物　紅茶

コーンミールとは唐蜀黍を細かく碎いたもので大

變に滋養に富むもので御座います、此コーンミールを大匙二杯を一人前の量として水にて溶し遠火にて氣長く煮ます、煮えますと固まりますから、それに牛乳と白砂糖とをかけて出します。

スクランブルドエッグスは玉子二つをわりよく攪亂して牛乳五勺を加へ鹽胡椒を適宜に加へて、フライ鍋にバターを溶かしバターが煮立ち泡がきえましたら、前の玉子を入れて、よく攪廻して柔かい内に鍋を卸して直ぐに皿にとりて出します、之は固くしてはいけませんから、まだ餘程柔かい時分に鍋を卸しますとお皿に盛るまでに丁度よくなります、之れにスライスドビーフを添えて出します。

尚上等で御座います。

紅茶は茶匙一杯を一人前と見つもりて熱湯をつぎてよく色が出ましたら、クリームやお砂糖を入れて出します。

一、木曜日

一、ヂャーマントスト

一、ワシントンオムレツ

一、果物　珈琲

ジャーマントストとはパンを二寸四方位の厚さ四分に切りまして、一人前二切の割合で御座います、之れに玉子の大きいの一つをよく攪き亂して牛乳五勺を入れ砂糖を適宜に入れてよく攪まはしまして之れに前の切りましたパンを浸し、よくパンに浸み込みましたら、フライ鍋にバターを溶かし、よく煮立て浮き上りし泡の消えましたのを度として、前の浸したパンを入れて兩面ザットいためます、餘り強火ですと焦げますから文火の方がよろしう御座います、しかしバターを溶しますには初め強火でよく溶して置きませんといためた物が油くさくて頂かれません、前の如くして出來上りましたら、お皿にとり、砂糖をふりかけて出します、之れはナカ〳〵おいしいもので御座います。

ワシントンオムレツ、之れは前のジャーマントーストのつかひました殘りのパンをむしつてよう煮沸ちたる牛乳一合を注ぎます、パンは牛乳一合について大匙一杯の割にて暫時牛乳に浸し置きます之れに玉子三つをよく攪廻して加へ、鹽胡椒末を適宜に加へて、フライ鍋にバターを溶しよく煮立

ちて泡の消えし時に前のものを入れて燒き褐色になるまでやきて四角に切り皿に盛りて食膳に供します、之れには鹽氣だけでお砂糖を用ひません。

一、金曜日

一、ベーコントースト
一、ソフトエッグス
一、果物　ココアー

ベーコンを極薄く切りまして、ふらい鍋でバターデいため、パンを遠火でコンガリと燒きました、トースの上にのせて皿に盛りて出します。

ソフトエッグスとは半熟玉子の事で御座います、此半熟は白身がほんの固りかけた位で黃身の方が稍白身より固い加減に湯煮なければいけません、先づお湯が指先をチョイと漬られる位までに煮立たせて（華氏の寒暖計で百五十五度前後）其お湯の中へ玉子をフット入れて三十分から四十分間湯煮ますと白身も黃身も丁度好加減に半熟になりまして其味の好い事は普通の半熟玉子や湯煮玉子の樣で御座いません、且消化も大層早いもので御座います、尙簡便な方法が御座います、これは最初お湯をグラ〳〵沸立たゝせて其中へ玉子を割れないようにソット鍋の端から辷らせて入れ、三十秒即ち半分間の後鍋を火から卸して鍋共に火氣のある暖へところへ五分間置きますと丁度よい加減になります、急ぐ時は之れが一番早く出來まして便利で御座います。

ココアーの製法は前にチョコレートの時に申上ましたから略します。

一、土曜日

一、ハム、オムレツ
一、ホットケーキ
一、果物　紅茶

先づ上等のハムを少し少さく切りて一寸バターにていためて置きます、それから玉子を黃身と白身とわけます、此分ける時には先づ玉子の中央を二つに割り、平たき皿をかけて其殼を兩手に持ちて黃身を幾度となく左右の殼に移し替へ其際白身を下の皿に滴して之を分ちます、そして黃身を深き皿に入れ充分之を攪亂して牛乳胡椒とメリケン粉とを加へ置きます、白身は黃身が一點も混ざらな

いように注意してホークで之を掬ひ上げながら楕圓形に廻轉致します、此樣にして居りますと白身は全く泡立ちて中に空氣を含み吹けば飛ぶ如くになります、此攪廻す時に延廻しをしたり手をやすめたり致しますとナカ〳〵泡立ちません。

偖此樣にして白身が泡立ちましたら前の黃身の中へだますように少しづゝ此白身の泡を交せます、此交せます時にメリケン粉を少々づゝふりかけますとよく度ります、斯うして出來ましたらフライ鍋にバターを溶してそれに注ぎ下の方が固りかけましたら前のハムを其中央に入れて平たき庖丁にて焦付かないように押上げて半分に折り重ねます

そして暖かき皿に鍋の一端から辷り移します、通常のオムレツは玉子一つに大匙三杯の牛乳と鹽を一撮みの割合で玉子を攪き亂してバターで燒きたる後折重ねて皿に移します、折り重ねます前に洋芹を小々刻み或はチースを擦れ卸して少々入れますと大變結構で御座へます。

ホットケーキは先づメリケン粉をふるひて大匙三杯にベーキングパウダーを輕く小匙に一杯をよく交せ合せて牛乳大匙一杯と水を適宜に入れてドロ〳〵に溶きます、よく溶けましたら、フライ鍋にバターを溶かして大匙にて前のものを掬ひ二寸直經位の大さに鍋に落して兩面を一寸燒きますとフツクリとよくふくれますから皿に取りて之れに果物のシラップをかけて頂きます、又シラップのかはりに蜂蜜をかけてもよろしう御座へます。

以上述べましたのは只ほんの簡便な料理法ばかりを撰みましたので御座いますから、之れを應用なさつてお子樣方にお上げになつたら好いでせうと思ひます。

雜錄

○應急手當の色々

▲毒虫に螫された時、蜂其他色々の昆虫に螫されて其の部分が赤くなつて腫れ上り且痒くなり又は痛みが出て來た場合には速かに其の部分にアンモニアかアルコールかを塗る又其所に食鹽を付ても好い

▲火傷した時には直に其所にグリスリンを塗りつけ其の上を脱脂綿で掩ひ餘りいぢらぬ樣にして置くのが最も好い方法である、從來の樣に飯粒や鍋炭や味噌等をつけるのは徒らに其所を不潔にするのみで却つてよろしくない

▲衄血は餘り怖るべきものでないが、其の出血が容易に歇まず且つ多量の出血ある時は意外の病氣を惹き起す事が往々ある故に若し衄血が出る時には速かに止血法を講じなければならぬ、其の最も簡單な方法は明礬水を綿に十分浸して其を鼻孔に挿し入れ靜かに壓かすか、又は冷水に浸した布片を頸部に卷きつけ十分冷するのが最も好い

▲癲癇を起した時には全く人事不省に陷いり不知不識の間に意外の憂を招く事も尠くないから十分注意しなければならぬ其の病に對する急救療法は將に其の起らんとする兆があれば多量の鹽水を飲ますのである、斯くすると幾分か其病狀を輕くする事が出來る、而して發病中は常に布片等を口中に含ませ自分舌を咬む事なき樣注意しなければならぬ

▲日射病　此は烈しき日光が非常に強い煖爐の熱で起るのであるが、初めは只だ汗が流れ次で眩暈を起して卒倒し人事不省に陷るのである、此の病に犯された時には速かに冷水を頭部又は胸に注ぎ靜かに人工呼吸法を施せば蘇生するものである、又各自の豫防としては夏季ならば上部に糸孔の在帽子を被り、其の下に濡た布片を載せて旅行するのが一等である

▲吐血　吐血は胃より血を吐き喀血は肺より血を吐くのであるが何れにしても此の出血は大に注意すべきもので直に相當な醫師に賴んで十分に治療すべきであるが差當りの手段としては先づ身體を安靜にして言語を禁じ若し其が喀血ならば肺部に氷嚢を置き且つ一碗の水に食鹽二匁位を和したものを四五回に飲ましむべく其が吐血の場合には胃部に水嚢を置き氷片又は冷水を少しづゝ飲ましむるのである、又吐血の時に鹽水を飲ましむるは其の刺戟のために却つて出血を增す憂があるから決して食鹽は勿論其の他刺戟性のものを服用せしめてはならぬ

○日用家具の取扱

▲其の質の何たるを問はず常に能保存して年月を經れば其の年月の長いだけ寧ろ新調のものよりも堅牢で且つ珍重せらるゝのである、故に其の器具の質に依り各相當な取扱法を心得て常に丁寧に保存しなければならぬ

▲銅及び眞鍮　の器具は極めて微細な手落ちよりして直に綠青を

生ずるものであるが此の綠青は非常に人體に害のあるもの故餘り日常的のものではない、併し防ぐを得ず此を使用する時は必ず內部に浸潤を防ぐなければならぬ、又使用した後其の內外に決して濕氣の殘る樣な事があつてはならぬ、若し少しでも濕氣があれば直に其所から綠青を生ずるから十分拭き取つた上日光で能く乾かして置かねばならぬ

▲鐵器　は銅眞鍮等とは反して非常に人身に有益なものであるから日常煮物をするには成るべく此の鐵器を用ゆるが一等である、而かも其の手入れは甚だ簡單で每日使用する鍋釜は殊更に手入れをする必要もないが鐵瓶等は每朝必ず湯を上から流しかけるのが一等である、しかすれば鐵の色は段々に麗しくなり且つ斑點の出る樣な事も決してない

▲漆器　は如何に上等なものでも久しく濕氣にかゝつて居ると剝げ落つるものであるから水等に久しく浸して置く事はよろしくない、此を使用した時は直に能く乾きたる軟かい布巾で蔭り殘らぬ樣十分に水氣を拭き取り一つ〳〵の間に紙を入れて能く包み置かねばならぬ、殊に蒔繪のあるものは軟かな布巾で包む必要がある

▲陶器及び硝子器　は使用するに先ち釜に水を入れ其に少量の食鹽を加へ弱火でゆつくり煮るのが一番である、斯くする時は其の質が極めて鈍くなり容易に破損しない樣になるのである

○日常食器の選擇

燒物の應用せらるゝ範圍は頗る廣く、皿小鉢の類の食器から花瓶その他の裝飾品乃至便器等の如き衞生器具の各種に涉り其用途多樣なれば、陶器と磁器の適否得失の如きは容易に斷言し難きも、先づ日常使用する食器に關し其得失如何と云ふに、陶器製食器は器物の一角だに破損せば、氣孔性ある土壤性の素質に、滲肉汁等浸入し、不潔なる斑紋を作り、汚染する故、普通陶器たると、硬質陶器たるとを問はず、此缺點を存するを免れざるのみならず、陶器の多くには、含鉛蝕藥を用ゆるを以て、若し强き酢にて調理せるものを盛る時は、右の釉藥は酢の爲めに浸蝕せられ、食物中に鉛毒を溶入せしむるの例尠なからず、例へば淡路燒の美麗なる蓋物に、梅干を入れ置かんか、忽ち以上の浸蝕の結果を見るを得べし、又琺瑯食器即ち瀨戸引きと俗稱せる皿等にも白色青色のエナメルの燒付け居らるゝを以て、酢にて調理せるものは絕對に盛らざるを安全なりとす、次に陶器は土壤性の素質なるを以て、破壞し易く之を防止するには、勢ひ厚手に製造するを要す、從て食器として風雅の趣を缺く事となるなり、磁器製食器は高熱火度にて燒かれ、爲めに素質熔化して氣孔性を止めざるを以て、器物の一角破壞するも、肉汁等の浸染する事なく、且つ酢の如き弱酸は勿論、他の强烈なる酸類に會するも釉藥に變化を見る如き事絕對になく、殊に高熱度にて燒かれたる結果、質强固にして器物を薄手に作るを得、形狀優美なるを以て、食器としての用途は磁器の右に出づるものなく、彼の進步せる硬質陶器も、磁器には及ばざるなり、然るに我國に於て西洋料理に用ひらるゝ食器類は今尙ほ和製或は英國製の不透明性なる硬質陶器を使用し居れり、右は磁器の陶器に優れるを知るも製作比較的困難なるを以て、陶器程價

格の低廉ならざるに依るものにして、磁器の製造の發達せざる英米にては、主に陶器食器を用ひ、製陶業の最も發達せる獨佛にては、磁器を主に使用せり、近時日本に於ても日本磁器會社は、獨佛の製品に比し遜色なき硬質磁器を製するに至れり、要するに硬質磁器は燒物中最も進歩したるものにして、食器として最も適當のものと云ふべし

○齲齒の衛生

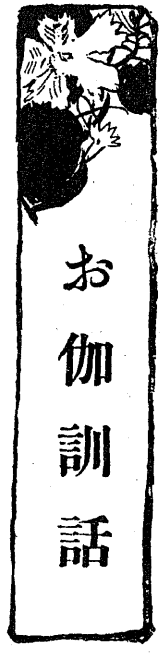
顏や身體の衛生には注意するが物を喰つても其汚れた口を洗濯するとか或は齒を磨くとかする人は殆んど絶無であるのは甚だ遺憾千萬である左に齲齒に關する注意を記さう

▲齒の天職　齒の第一の重要なる職務は言ふ迄もなく食物の咀嚼である其次は良く言語を調節すること〻又其次は吾々人間の相貌美と云ふこと〻一大關係を有するが一旦齲齒に罹るときは其腐蝕した齲齒の中に發生した黴菌は食物或は唾液と共に腹内に這入り動もすれば恐るべき疾病を惹起する加之齲齒の痛みの爲め或は腐蝕脱落の爲め肝腎の咀嚼機關が働けぬから勢ひ食物を鯨呑にし忽ち胃腸に障碍を生じ延ては腦病やら神經衰弱やら種々な病を惹起するやうになつて來る

▲人間の齒　元來人間の齒は上下三十二枚で生涯の中に二度發生する最初に生へるのが乳齒で生後六七ヶ月より生へ初め六、七歳頃になると永久齒に生換はる齒の素質は外部の現れてる眞珠色せる部分は琺瑯質で其中に象牙質があり又其中に齒髓と云つて恰も高野豆腐に似た者も有る是が例の血管やら神經やらを包んで保護してある

▲齲齒の原因　は無論食物が齒と齒との間に殘留して腐敗し之が唾液と共に乳酸を生ずる此乳酸が實は非常に齒に有害なので第一に堅牢無比なる齒の外部の琺瑯質を侵蝕し次で齒髓を侵す悪なつて齒醫者に駈付けても六苦十薬である即ち人工補足の外仕方がない、過般東京市内小學兒の齲齒の統計に依ると就學兒童約十二萬人中二萬まで即ち百分の七十五は齲齒だと聞いては轉た驚くの外はない其豫防が最も肝要である是とて外に六ヶ敷いことはない一言以て之を蔽へば常に口中を清淨にすると云ふことに歸着する

▲口中の清淨　は大人は重曹水或は硼酸水で能く口中を洗ひ哺乳兒はガーゼを微温湯に濕して絞り而して綺麗に口中を拭く樣に幾回もすればよろしい齒磨きは餘り弱くない強過ぎない言はゞ程能き楊子で起床後と就寢前に叮嚀に磨けば決して齲齒に罹る虞はない尤食事の前後に屹度之を遣ふ樣にすれば是に越したことはない



お伽訓話

曹長と國王

硯山人

ある所に大層威張る事の好きな兵隊さんが居りました。此の兵隊さんは日本で申しまする丁度曹長位の官職の人で御座りました。或る大變に雨の降る日の事。此の兵隊さんが往來を歩いて居りまするとと。外套をスツポリ着た一人の軍人が道を尋ねました。此の兵隊さんは日頃の癖としまして大威張で

『左へ行つて突きあたつたら右へ行けばぢきだ』

とまるで命令でもするやうに敎へてやりました。ところが此の軍人さんは大層丁寧に御禮を云つてから。

『偖て。あなたの御官職は？』

と尋ねました。曹長はまた大威張で。

『あてゝ見給へ』

といよ〳〵そつくり反つて申しますと。

『二等卒ですか』。

『もうと上だ』

『では。一等卒ですか』

『まだ。上だ』

『では。上等兵？』

『まだ』

『軍曹？』

『もつと。上だ』

『では。曹長？』

『まづ。其の邊だ』

軍人はどうも失禮と行き過ぎやうとしまするとと兵隊さんは

『こら〳〵。御前の官職は何だ。人のばかり聞く法はない』

『僕が。あて、ゝ見やう。二等卒だらう』

『まだ。上です』

『一等卒？』

『まだ。上へ』

『上等兵か』

『まだ』

『軍曹？』

『まだ。うへ』

『曹長ですか』

『まだ。うへ』

軍曹は大層契驚致しました』

『では。少尉殿ですか』

『まだ。うへ』

『中尉殿ですか』

『まだ』

『大尉殿ですか』

『まだ』

軍曹は顔の色を變へて驚きました

『では。少佐殿？』

『まだ。うへ』

『中佐殿ですか』

『まだ。うへ』

『大佐殿ですか』

『まだ。うへ』

流石大威張の兵隊さんも小さくなつて仕舞ました

『少將閣下ですか』

『まだ。うへ』

『中將閣下ですか』

『まだ。うへ』

『では。大將閣下でゐらつしやいますか』

『まだ。うへ』

『あゝ。あなたは。陛下でゐらつしやいますか』

傲慢な兵隊さんも顏色土の如くになり御赦を乞ひました。此の軍人は此の國の皇帝であつたのです。此の兵隊さんは非常に後悔し其の後どんな人にも威張ると云ふ事はありませんでした。